
仮面ライダーファイズ×スイートプリキュア！転校生は仮面ライダー？

R × P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーファイズ×スイートプリキュア！転校生は仮面ライダー？

【Nコード】

N1734X

【作者名】

R x P

【あらすじ】

渡達がいなくなって3週間後、突然加音町の私立ARIA学園に転校生、犬上狼がやってきた！果たして彼らとの出会いはいかに意味するのか！

別の世界の仮面ライダーファイズとプリキュアが今出会う！

オリキャラの設定と紹介！（前書き）

一部修正版です。

オリキャラの設定と紹介！

555の主人公および仲間達です。全員オルフェノクでもあります。

犬上 いぬがみ ろう 狼 / 仮面ライダー555 / ウルフルフェノク

年齢14

演 宮野真守

1人呼は俺【時々僕】

本作オリジナルの主人公でスイートプリキュアのアリア学園中等部に転校生としてやってきた。

見た目とは裏腹に口が悪いが、実はシャイで本当は優しく素直に言えない性格だった仲間と接する事でだいぶ穏やかな性格になっていった。

スマートブレインのチームジャスティスの隊長を勤めており、またこの世界で侵攻し増えたオルフェノクと戦う為ファイズに変身する！

年齢の割にはかなり大きく165センチある

女の子が少し苦手だったが今は無くなっており普通

口癖は「ったく！しかたね〜な！」

ケーキが大好きでありまた、ウルトラマンのコスプレ好き！

得意なバトルスタイルはあらゆる格闘技を応用した技を使って戦う！

富岡成二 とみおか せいじ / 仮面ライダーカイザ / ホースオルフェノク

年齢25

演 高岩成二

1人称は俺または私

狼と甲の上官で彼らの兄貴分！

非常に熱い性格の持ち主だが頭はかなり切れる？男であり情報分析が得意！

ファイズのプロトタイプ、仮面ライダーカイザに変身する！
得意なバトルスタイルは原点のファイズ同様ラフスタイル！
悪癖として熱血捨て身戦法が得意！

みしまこう

三島甲ノ仮面ライダーデルタノタートルオルフェノク

年齢14

演 三浦涼介

狼の親友で最初はファイズ装着者になる予定だったが選ばれず、2つのライダーのプロトタイプ仮面ライダーデルタの装着者に任命された。

性格は真面目だが、少しドジな所がある！甘い物が苦手だったが奏のケーキで好きになった

身長は狼と同じ。

バトルスタイルはキックボクシングスタイルを得意とする

また射撃も上手い！

ライオトルパー部隊

スマートブレインに所属している正義のオルフェノクが集まって結成された戦士達！

人々を守る為に命をかけてファイズと共に戦う！

エボルトオルフェノク

今作オリジナルの敵組織！

人類をすべてオルフェノクにしようと企んでいる。またスマートブレインから帝王のベルトを奪って戦いをいどんでいる。実はノイズが別の世界を支配する為に作った組織でもある！

Zノ仮面ライダーオーガノアークオルフェノクノ犬上巧

いぬがたぐみ

演 半田健人

仮面ライダーオーガに変身するエボルトオルフェノクのリーダー！
なぜこのような企みを立てたかはわかってなかったが、アークに操
られている浪の父親だと言う事が劇中で明らかになった！
本来のファイズの変身者でもあり優しい人物でもあった。
現在は元にもどっており今は入院している。
姿は原作と同じ乾 巧

D / 仮面ライダーサイガノタイガーオルフェノク

Zの弟精神が幼い子どもその物だが、非常に好戦的な性格である！
自我が無いような話し方が特徴

実はある人物がライダーとプリキュアをあざむく為に変装した姿で
もある。

また本当の弟ではない！

オリキャラの設定と紹介！（後書き）

n e x t F a i z 転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！（前書き）

一部修正です！

仮面ライダー×スイートプリキュアのコラボ第3弾お楽しみください

い！

ではstartup！

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！

その日、響達の教室である話して持ち切りだった。なぜなら転校生がやって来るのだ！

響「転校生か？どんな子何だろ？奏くどちか聞いてないく？」
奏「わからないわ！って響！シャキツとしなさいよ！」

響は机上でだるそうにしていた。

エレン「熱でもあるの？響？」

響「ううん、疲れただけ。ここの所ネガトーンが少ないから助かっているけど。」

奏「もう！響たらく！」

エレン「ねえ！私の窓側の隣の席空いているんだけど…」

響「転校生の席かもねく！ふあく眠いなく」

するとチャイムがなり生徒の1人が

男子「先生がきたぞ！しかも男子が一緒だ！」全員すぐに席に着く

先生が教室に入り教台の前に立つ！

生徒「起立！礼！おはようございます！」

先生「皆さん！おはようございます！ではまず転校生を迎えますねく入って来て！」

すると犬上狼が入って来て教台の隣に立つ。なぜかだるそうに！

響達はこう思っていた

響「？だるそうにしている？」

奏「なんだろう？」

2人「エレンと同じパターン来ないよね！」

生徒「イケメンだなく」

女子「格好いい！」

狼【うわ！女子いやがる！最悪だなこりゃく】
と思っていたら

先生「さあ自己紹介して」

犬上「あっはい！」

黒板に名前を書いてから

狼「僕は犬上狼（ろう）です！狼って読んでください。よろしく」ペ
こりと軽く頭を下げる

先生「他に何か言う事はないの？」

狼「いいえありません。」

先生「じゃあ狼君は！黒川さんの隣の席でいいかしら？」

狼「えっあっはい！」

一瞬困惑したと思ったらすぐに普通の顔に戻り席に着く！
するとエレンが話しかける

エレン「はじめまして狼君！私黒川エレンって言つの」

狼「ああ、よろしくな…」

なぜか顔を見ないで返事する。

エレン「どうして顔そむけるの？」

狼「えっあゝ気にしないでくれ…」

エレン「？」

先生「さあ授業始めるわよ！」

45分後の休み時間、多くの生徒が狼に質問する。

女子「ねえ！狼君ってモデルとか何かやっているの？」

狼「別に！僕モデルに興味ないし芸能人あんまり知らないから」

女子「ふゝん！」

男子「じゃあ前の学校ではモテたのか？」

狼「別に」

男子「えマジかよ！」

女子「なんで転校して来たの？」

狼「親父の都合だよ！しょっちゅう転勤だったから」

男子「ふゝん」

響「好きな事ってある？」

狼「ああ、携帯いじるのが好きだな…後クラシック聞くのが好きだ

な：顔近いよ君！」

響が顔を前に出しながら聞いてきたのだ！

奏「響！やめなさいよ！びっくりさせているじゃない！」

怒る奏

響「アハハ！ごめん！ごめん！あつ自己紹介まだだったね！あたし

北条 響！」

奏「もう！狼君ごめんね？あつ私は南野 奏よ！よろしくね」

笑顔で話す奏

狼「ああ！よろしくな」

女子「狼君の好きな食べ物とか何かな？」

狼「ケーキだな…！」

奏「じゃあ放課後に家庭科室に来てね！私スイーツ部やっているの

」

狼「おお！後で行くよ！」

エレン「嫌いな物はあるの？」

狼「まあゝ無いな」実際は女の子が苦手だが言えなかった。

そして昼休み！

響たちは歩いてベンチに向かっていた。

響「さあゝお弁当だ！今日は一番おいしいおかず入っているから楽しみ」

奏「ふふふ 嬉しそうね響」

エレン「本当よねゝ あれ？狼君？」

狼は響達がよくお昼を食べるベンチの隣で携帯電話をいじっていた。しかもやけに分厚い携帯電話を

響「狼君！何してるの」

狼「うわあ！びっくりした！何だよ！びっくりさせるな！」

響「ごつごめん！そんなつもりじゃなかったのよゝ！お詫びに一緒にお昼食べない？」

狼「わつ悪い！さつき弁当食ったから！それじゃあ！」

足早に逃げて行ってしまう狼

響「あつ！行っちゃった！」

奏「あら？コレ狼君のじゃない？」

見るとさっきの携帯電話【ファイズフォン】がベンチに落ちていた。

エレンが手に取る。

エレン「やけに分厚いわね〜！携帯電話ってこんな物なの？」

響「ううん、多分古いタイプね！しかも見たことない携帯ね？」

確かにファイズフォンは一般の携帯より分厚いのだ。

奏「今どきにしてみれば珍しいわね〜？あら？何かしらこのマーク？」

ファイズフォンのマークが気になるとエレンが

2人「ちよつと！エレン勝手に開いてらまずいよ〜！」

エレンがなんと勝手にファイズフォンを開いてしまったのだ！

エレン「携帯のメーカー見るだけよ。え〜とメーカーは…スマートブレインね」

響「スマートブレイン？」

奏「聞いた事ない会社ね？」

エレンはファイズフォンを閉じて

エレン「後で狼君に…あ戻って来たわ！」

狼が走って戻ってきた！

狼「悪い！それ返してくれ！」

エレン「あつうん」

エレンが携帯を差し出したので狼は受け取る。

狼「サンキューな…じゃあ！」

狼は走って行った。

響「なんかさあ〜狼君私たちを避けてない？」

走り去って行った狼を見ながら

奏「うん！私も思った。」

エレン「何か隠しているのかな？」

響達は？になりながらベンチに座りお昼を食べ始めた頃、人がいない所で狼がフェイスフォンを耳に当てある場所からの連絡を受けていた。

狼「わかった！任せてくれ兄貴！」

フェイスフォンを切り、

狼「さて！準備するか！」

駐輪場に止めてあるバイクのトランクを取りに走り出した

【放課後】

響はテニス部の助っ人に奏とエレンは家庭科室に向かった。

奏は今日のケーキを作り始めエレンは見学する。

奏「〜」と歌いながらケーキ生地を作っていた時！外で爆発が聞こえてきた！

奏「まさか！ごめん後で戻るから！エレン！」

エレン「わかったわ！」とエレンと一緒に外に向かって走る！

女子「あっ奏！」響が走ってきて合流し門に向かって走る！するとそこにはロボット型ネガトーンがいた！トリオザマイナーも一緒に響「またアンタ達なの！」

バストラ「そのまさかだ！覚悟しろプリキュア！今日こそ倒してやる！」

三人はキュアモジューレを取り出す！【校門近くの生徒は泣いていた為気づいてない】

三人「みんなを泣かせるなんて！絶対に許さない！レッツプレイ！プリキュア・モジューション！」三人は変身する！

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」三人は決めポーズを決める！

バストラ「やれ〜ネガトーン！」

ネガトーン「ネガトーン！」

メロディー&リズム「はあ〜！」

2人は同時にパンチを 叩きこむ！だが堅いボディにはパンチは通
用せず、2人は手を抑えながらぴよんぴよん跳ねた！

メロディー&リズム「いったい！」

ビート「2人共大丈夫？ハ！フツ」

素早く回避してビートはネガトーンの後ろに回りキックを決める！

ビート「えい！」

だがこの攻撃も全然効いてなかったようでビートも足をもちながら
ビート「いったい！なんて堅いボディなの！」同じくぴよんぴよ
ん跳ねた！

メロディー「アイツ体堅すぎ！」

リズム「どうすれば！」

ビート「ここは連結でいきましょう！」

2人がうなずき、三人で連携攻撃で果敢に攻めるがやはりネガト
ンは堅いボディのせいではなかなかダメージを与えられない！すると
ネガトーンのパンチが三人に炸裂して三人は地面に叩きつけられた！
メロディー「くっ！」

リズム「うー！もう！こうなったら！」

ビート「遠距離攻撃で行くしかないわ！ラブギターロッド！」

ビートはラブギターロッドを取り出して

ビート「ビートソニック！」

音符型の矢が全て命中するがダメージがなかった。

ネガトーン「ネガトーン！」

ビート「そんな！」

メロディー&リズム「それなら！プリキュアハーモニーショット！」

2人は手を合わせてエネルギー波を放つがこれもネガトーンには効
いてなかった！

メロディー&リズム「なんで！」

バストラ「当たり前だ！これまでの戦いの対策としてある研究所か
ら盗んだ超合金のボディを持つロボットを使っただけだから格闘
技や光線技そして仮面ライダー対策もばっちりだからな！やれ！

ネガトーン！」

メロディー「何で仮面ライダー対策？」　？になるメロディー

バストラ「ウルサーイ！行け！ネガトーン！」

ネガトーン「ネガトーン」

ネガトーンが攻撃再開をして来たので避けるメロディー達！

三人「くっどうすれば！ああ！」

ネガトーンは鉄の輪っかでメロディー達を地面に固定してしまう！

メロディー「なんて重いの！くっ！」

リズム「ああ！くっ動けない！」

ビート「メロディー！リズム！このままじゃ！」

バストラ「ハハハハハ！今回は我々の！なんだあれば！」

【ブーーン】

突然誰も乗っていないバイクが走って来てネガトーンに体当たりをして吹き飛ばす！

バストラ「なんだコレは？バイクが何故！なんだ！」

無人のバイクが空中で【battle mode！】と音声で鳴り変形してロボットになる！

ファイズの愛車であり相棒のオートバジンが起動したのだ。

メロディー「なにこのロボット！」

リズム「バイクがロボットに！」

ビートはチラリとオートバジンのメーカーが見えた！するとビートはこう思った。

ビート「【スマートブレインモーターズ？もしかして同じ会社から？一体誰が？】」

バストラ「なんだお前は！」

オートバジンはバスターホイールを取り出して射撃を開始してネガトーンに攻撃する！もちろんダメージは無いがネガトーンは一斉射撃にひるむ！

そしてオートバジンはメロディー達を固定していた輪っかを抜き取

って、メロディー達を解放する。

メロディー「ありがとう！ロボットくん！」

するとオートバジンの顔のモニターに文字が表示された、英語でオートバジンと書いてある。

リズム「オートバジン？」

ビート「名前かしら？とにかくありがとう！」

三人はバストラとネガトーンに向き直る！

メロディー「さあ！行くわみんな！」

リズム「オツケ〜！さっきのお返ししなくちゃね〜！」

ビート「行くわよ！」

バストラ「ええ〜いネガトーン！何やってるんだ！アチー！誰だ！」

狼「俺だよ！」

犬上狼だった！

狼「まったく！しかたね〜な！スイーツ部に南野さんがいないから探していたら、まさか探していたプリキュア達に会えて、オマケに盗難されたX-T1利用しやがったマイナーランドか！」

全員が打ってきた方角を見るといつの間にか狼がフォンブラスターに変形したファイズフォンを右手で握り左手にファイズシステムと書いたトランクを持ち、ぶつくさ文句を言う犬上狼が立っていた。

メロディー「あなたは！」

リズム「ここは危険よ！逃げて！」

狼「なんで逃げる必要があるんだ？！」

教室にいた印象と違い堂々と応える。

ビート「あなた一般人でしょう？危ないから逃げて！」

狼「だから必要ねえよ！俺は任務の為に来ただけだ！」

三人「え！」

バストラ「貴様何者だ！」

イライラしたバストラが聞く

狼「俺か？俺は任務でプリキュア達と共に戦う戦士だ！」

メロディー達「え〜！どういう事？」

狼「後で説明してやる！行くぜ！」

狼は持っていたトランクからファイズドライバーを出して腰に装着してフォンブラスターをファイズフォンに戻し555と入力してEnterを押す！

【Starting・by】

と音声がなり狼はファイズフォンを閉じてを斜めに構え叫ぶ！

狼「変身！」

【Complete】

と音声が出てファイズフォンをセットしたドライバーから赤いライン、フォトンブラッドが発生して狼の体にラインを作り赤く輝き！一瞬で赤いラインが入ったメカニカルなスーツを着た戦士に変わる！メロディー「あれって！」

リズム「まさか！」

ビート「仮面ライダーファイズよ！でもどうして！」

響達は以前ディケイドが召還した仮面ライダーファイズを思い出した。

バストラ「仮面ライダーだと！またか！」

ファイズは指を鳴らしてからこう言う！

ファイズ「俺は仮面ライダーファイズ！さあ来いよそこのお前ら！」

腕を回し挑発するファイズ

するとバストラが笑い出した！

バストラ「フフフ！ワハハハ！バカか！格闘技が効かない敵にどうやって勝つつもりだ！それに仮面ライダーは格闘技や銃や剣をつかうんだろ？対策バッチリのネガトーンに勝てる訳がない！わはははは！」

バストラ達は馬鹿笑いする！だがファイズは

ファイズ「ふん！そうかよ！俺を舐めると痛い目に会っぜ！仮面ライダーは格闘技だけが取り得じゃないって事を教えてやる！」

ファイズはオートバジンに近づいてハンドルの部分にミッションメ

モリーと言うメモリーカードをファイズフォンから外してファイズエッジにセットする【Ready】と音が鳴り剣が出現した。

メロディー「あれは？」

リズム「剣？でも」

バストラ「馬鹿が無駄だと！何〜！」

ファイズはファイズエッジでロボットの腕をいとも簡単に切り裂いてしまったのだ！

しかも切り口が溶けていた！

バストラ「どうなっているんだ〜！。」

ファイズ「俺のスーツとファイズエッジのエネルギー源はフォトンブラッドと言う特別なエネルギー源何でね！金属なんて簡単に溶かしてしまうのさ！」

バストラ「そんな〜！」

トリオはアタフタと焦る！

メロディー達「スゴ〜イ！」

ファイズ「さあ！一氣に終わらせてやるか！」ファイズはファイズエッジでロボットネガトーンに切りかかりダメージを与えてロボロにする！

ファイズ「うおりや！ハア！せいや！」

ファイズは連続で剣術を決めていきロボットネガトーンを倒す！

バストラ「あわわわ！」

メロディー「スゴ〜イ！狼君強すぎ！」

リズム「どうなっているの？あんなに早くしかも動きもいいし！」

ビート「狼君は戦い慣れしているわね！一体どうして？」

啞然として突っ立ったままになるプリキュア達

狼は明らかに少年と思えない動きで戦いそして

ファイズ「さあ！決めるぜ！」

ファイズはファイズフォンを開いてEntarを押して閉じる。

【Exseed charge】

と音声になりファイズはファイズエッジを下から上突き上げて衝撃

波を地面から飛ばしネガトーンをロックする！

ネガトーン「ネガトーン」

ファイズ「終わりだ！スパークルカット！ハア！」

ファイズエッジの必殺技！スパークルカットが炸裂しファイズの文字が浮かんだ後！音符を残してネガトーンを倒す！

メロディー「浄化無しで音符だけ！」

バストラ「あわわわ退却だ！」

トリオザマイナーは慌て退却した。

ファイズ「さて任務完了！」ファイズエッジをオートバジンに戻した後メロディー達が警戒しながら近づいてきた。

メロディー「助けてくれてありがとう。それと、狼君あなた一体？」

ファイズ「俺はこの町を守る為マイナーランドやオルフェノクと戦う戦士だ！ファイズさ」

自慢げに言う狼！

メロディー「！ってあんた！ロボット壊しているじゃない！どうしてくれるのよー！」

メロディーが抗議を始める！なぜかと言うとネガトーンは本来浄化して音符とネガトーン化した物に戻さなければならないのだ！だがファイズは事もあるうにロボットを破壊してしまったのだ。

ファイズ「あのロボットは元々俺の親父の会社で作られていた試作品のロボットだ。心配ないぜ！今日廃棄処分する予定だったからどの道破壊するつもりだったんだ。」

リズム「え！じゃあ知っていて破壊したの！良かった！いきなり破壊したからびつくりしたものだ」

ファイズ「兄貴からの任務でな。ああするしかなかったんだ」手を上げて振りながら言う

するとビートが

ビート「ところで？オルフェノクって？」

ファイズ「オルフェノクって言うのは死んだ人間が突然変異で生き返って超人的パワーを身に付けた人間さ！今特に危険なオルフェノ

クが急激に数を増やしているから…

とりあえず続きは俺んちに場所を変えようぜ！ここだと人がすぐ来るだろうし！」

三人は頷き変身を解消する。ファイズはプリキュアの正体を知って驚いた

ファイズ「マジかよ！君たちがプリキュアだったか！…びっくりしたぜ！」

ファイズも変身を解消する

響「私たちも驚いたたわよ！」

奏「いきなりそっちも変身するし」

エレン「仮面ライダーって色々いるんだね！」

狼は【？】となりながら

狼「少し待ってる！」と言いファイズフォンで車を呼び出して、数分後に三人を乗せる。

響「あれ？乗らないの？」狼はオートバジンのファイズマークを押してオートバジンをビークルモードに戻して乗りながら、

狼「オートバジンに乗って行く！これ一応自転車扱いにしてあるから！」

三人「それが自転車！？」

狼「ああ！」なんとも言えない事実が出たのだった！

続く！

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！（後書き）

next Faiz 出動！ライオトルパーズ！オルフェノクの秘密！

出勤！ライオトルパーズ！オルフェノクの謎！（前書き）

第二話いよいよ完成しました！
ではstartup

出動！ライオトルパーズ！オルフェノクの謎！

響達が車に乗ってから数分後、響達は見慣れない会社スマートブレイン社の駐車場に到着する。

響「ここは？って言うかあたし達学校の部活が！」

男性隊員！「ここはスマートブレイン社です。主に家庭製品などを開発する会社です。学校の方にはすでに特別下校許可が出ていますのでご心配なく。！！まだ下りないでください！」

エレンが扉を開けようとしたので止める隊員。

エレン「えっ？下りないの？あれ！」

突然車の止まった場所が【ガコン】っと音がなり車を乗せた床が地下に下りる！

エレン「えっ！コレは！」

奏「動いた！」

響「もしかして地下があるの！」

隊員「はい！今から地下にある我々の秘密司令部に来てもらいます！よろしいですね？」

響「へっ？」

奏「はあ？」

エレン「？」

地下に下りている途中でエレンが狼を見つける！

エレン「あれって！みんな！狼君とオートバジンよ！」

窓を見ていたエレンが狼とオートバジンに気付く！

オートバジンに乗ってやった来た狼はエレン達に気づて手を振る。

そして地下室に到着して全員車から下りて、スマートブレインが作った特殊戦闘部隊の基地通称スマートに到着する

響「こんな地下に基地があるなんて！」

奏「スゴイ！驚いたわ！」

エレン「でも何で地下に基地があるの？」

狼「敵に見つからないようにするためさ！」

すると隊員が

隊員「狼隊長！我々は見張りの任務があるので失礼します。」

狼「ああ！頼んだぞ！」

隊員「はい！」

全員敬礼して走って行く！

響「狼君が隊長！嘘〜！」

狼「言ってなかったな！俺このチームの一つジャスティスの隊長なんだ！」

三人「え〜！」

それから4人はスマートの中に入ってエレベーターに乗り狼がファイズフォンをチェッカーに当てる！【complete】と音声が出る響達を乗せたエレベーターが動き出した。

響「どこに向かっているの？」

狼「司令室さ！けっこう時間かかるからさっきの話の続きを話しておこう。」

狼は先ほどの話を話し始めた！

狼「俺たちが追っているオルフェノクはエヴォルトと言う組織に所属した危険なオルフェノクを始末しているんだ。」

響&エレン「危険なオルフェノク？」

奏「オルフェノクが全て危険なの？」

狼「いいや、全部が危険ってわけじゃない、もともとオルフェノクには三種類存在するんだ。自然に誕生するナチュラル！人間にオルフェノク細胞を移植して2つの種族を融合させたハイブリッド！そして人間に危険な薬品をエヴォルトウイルス使って強制的にオルフェノク化させた奴がエヴォルトだ！ちなみに俺はハイブリッドだけだな！

3人「え〜！狼君オルフェノクなの！」狼「ああ！だが心配するな！ハイブリッドは人間の細胞が融合している為に暴走は起こらないんだ。だから俺は人間を絶対に襲わない。まあオルフェノクには

変身出来るが…」

奏「身体は大丈夫なの？細胞が全てオルフェノクになるとか」

狼「無い。細胞が融合しているからナチュラルより精神が安定しているからな。」

エレン「ナチュラルは安定しないの？」

狼「ソイツ次第だな。ナチュラルは自然に発生したオルフェノクだから、人間の頃の優しさや感情がある奴もいるがたまに理性を無くして暴走する奴がいる。もっともスマートブレインで働いている社員はハイブリッドが多いが数人ナチュラルもいる。」

エレン「そうなんだ。」響「後、エヴォルトウイルスって？」

狼「エヴォルトウイルスは元々スマートブレインが開発した試作品のオルフェノクを人間に戻す薬品だ。だが色々壁に当たって計画は中止になって薬は廃棄処分されるハズだったんだ。だがかつてこの研究者の2兄弟がそれを強奪して行っただ。帝王のベルトと共にな…おっ！着いたなベルトの話しはまた後でな！」エレベーターが止まり三人が頷くとエレベーターが扉が開く！すると目の前はオペレータールームだった！

オペレータールーム中は沢山のモニターやパソコン！そして大勢のオルフェノク達【人間体】がいた！

3人「スゴイ！」

狼「ようこそ！俺んちへ！ついて来てくれ！司令室に案内するよ！」

三人は狼に付いて行き司令室に到着する。

狼「成二兄さん！帰ったよ！」

成二「おー！帰ったか入ってくれ！」

響「お兄さんいたの！」

狼「違うぜ、成二さんは兄弟じゃないけど、中がいいから義理の兄弟みたいなもんなんだ」

三人「なにそれ」

こんな会話をした後、全員司令室に入り富岡成二と対面する！

成二「ようこそスマートへ！私はこの司令官、富岡成二だ。よろ

しく」

響「よろしくお願いします。私は北条 響です。」

奏「南野 奏です」

エレン「黒川エレンです。好きな色は……」

2人「だから！エレンそれはいらないうて！」

またしても見事にツツコム！

そして自己紹介を終えた後、三人はプリキュアの説明をして、成二が納得した後三人がファイズの事と帝王のベルトの事を教えて欲しいと頼んだのでマスクドライバーシステムの説明を成二が始める。

成二「ファイズは対オルフェノク用特殊バトルスーツとして開発した物だ。パワーバランスが優れている為、あらゆる戦況に対応出来るように設計しているんだ。また、彼以外は変身出来ないようにしている。」

奏「どうしてですか？」

成二「敵に捕られて利用されるのを防ぐ為だ。なにしろ力が強いからね！」

奏「なるほど」

成二「後に君たちプリキュアの浄化技を応用したシステムを組み込む予定もある。不完全ながらネガトーンにも対応しているがまだまだデータが足りないんだ！そこで君たちプリキュアのデータを集める為にぜひ我々に協力して欲しい！」

響「私たちが協力を？」

成二「そうだ、今エヴォルトオルフェノクはマイナーランドと手を組んでいるはずだ。」

奏「本当ですか！」

エレン「でも何でマイナーランドが？」

成二「理由はおそらく君たちプリキュアを倒す為だろう。だから我々も協力関係になって人々の安全を守りたいのだ。」

真剣な眼差しで響たちを見つめる！

響「どうしようか？」

奏「確かに仮面ライダーが戦力になると心強いけど」

エレン「うん」

三人が悩み始めたので成二は

成二「別に今日返事をしなくてもいい！ゆっくり考えてくれ」

につこり笑いながら言う成二

三人「わかりました。」

次に成二は帝王のベルトについて話す

成二「帝王のベルトはファイズシステムをベースにそれぞれ新しい能力を追加させた新型でね、サイガはスピード、オーガはパワーなどがファイズより優れている物だった。だが強すぎる為並みのオルフェノクや人間では使用すらままならかった。そこで保管して適合者を探す事にしたのだが奪われてしまったんだ。」

響「ベルトはなぜ奪われたんですか？」成二「わからない、最終調整が終わる前にZ達兄弟に強奪されてしまったし。おそらく力が欲しかったんだろう…うん？失礼！どうした？」

突然モニターにオペレーターが会話を話しかけてきた。

オペレーター「司令官！ 町と加音町の商店街でエヴォルトウィ

ルス反応です！」

成二「なに！直ちにチームジャスティス！チームフリーダム出動だ！」

？「了解！行きます！」

狼「よっしゃ！任せろ！」

響「私たちも手伝ってください！」

響達が成二に頼む！

すると成二は

成二「わかった！頼んだぞ！」

狼「よし！ついて来てくれ！」

三人は狼に付いていくと隊員用すべり台が設置された場所に来る！

奏「これは？」狼「隊員用のすべり台さ！さあいくぞ！」

エレン「どうしてすべり台なの？」

狼「早くマシンスペースに着く為さ！」

こうして狼たち4人と4人の隊員がすべり台でマシンにスペース移動する！

マシンスペースにはオートバジンの他にライオトルパー専用バイクや移動用の車があった。

響達は車に乗り込み、狼と残りの隊員はバイクに乗るとエンジンを掛ける！

するとハッチが開き長い通路の先にワープゲートが出現する！

響「あれなに？」

隊員「ワープゲートです！しっかり捕まってください！」

一斉にマシンが発進する！

響「えっ！ちよっと！」

マシンが急に発進したのでびっくりする響。

奏「ゲートに入るわ！」

エレン「どうなるんだろ？」

不安になる2人

マシンはゲートを通った次の瞬間！いつも響達が見ている場所に出た！

響「あ！ここって！」

奏「私たちが知っている場所だわ！」

エレン「ワープって凄い！」

響達が驚いていると隊員が

隊員「うん？隊長！あれを！」

狼「アイツらか！」

マシンから全員降りる。

エヴォルト「うおーっ！」

人々「きゃああ！うわあああ！」

逃げ惑う人々を追うようにドラゴンオルフェノクとオクトパスオルフェノクの2体暴れていた

三人「あれがオルフェノク早く止めないと！」

狼「待った！ナンバー2、エヴォルトレベルは？」

隊員「レベル5です隊長」

響「レベル？」狼「感染度の事さ！アイツらは…倒すしかない！」

奏「助けられないの？」狼「残念だけど、あそこまで感染していたら無理だ！みんないくぞ」

狼と隊員はベルトを響たちはキュアモジャーレを取り出す！

狼は素早く変身コードを入力して【Statting・by】と音声が出るのでファイズフォンを閉じ斜めに構え叫ぶ！

狼「変身！」

叫んだ後ドライバーにセットして【complete】と音声があり、ファイズに変身する！

三人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

三人は変身していつもの名乗りを上げてファイズに並ぶ！

隊員達「変身！」

【complete x4】

ベルトのバックルを倒してライオトルパーに変身する！

メロディー「それは？」

ライオ「量産型ライダーシステムのライオトルパーです！隊長命令を！」

ファイズ「お前たちは左側の方を！俺たちは右側だ！無茶するなよ！」

ライオ「了解！」

素早くアクセルレイガンを取り出して、左側のオクトパスオルフェノクに向かって行く！

ライオ達「うあー！」

まず2人のライオがガンモードで打ち残り2人がブレイドモードで切り裂く！

オクトパス「グアアア！」

オクトパスも反撃を開始して4人を吹き飛ばす！

ライオ達「うわあああ！」

メロディー「助けてあげない！」

とメロディーが向おうとしたのをファイズが止める

ファイズ「アイツなら心配ない！こっちはアイツを倒しに行くぜみんな！」

メロディー「でも！」

リズム「ここは、あの人達に任せてみまようメロディー」

ビート「あの人達も戦士だし 大丈夫だよきつと！」

メロディー「わかったわ！行こう！」

4人はドラゴンオルフェノクに立ち向かう！

メロディー「はあゝ！」

リズム「はあゝ！」

ビート「はあゝ！」

ファイズ「おりやあゝ！」

全員のパンチがドラゴンに炸裂するがドラゴンが放叫を上げて逆に吹き飛ばされてファイズ以外地面に叩きつけられてしまった！

ドラゴン「ぐおおおおおおおお」

ファイズ「グアアア！ぐ！」メロディー達「キャアアア！」

ファイズ「大丈夫かみんな！」

メロディー「なんとかね…グッ！」

リズム「なんて力なの！」

ビート「接近戦は危険ね！だったら！」

ビートはラフギターロッドを取り出してビートソニックを放つ

ビート「ビートソニック！」

ドラゴン「グアッ！」

ファイズ「ったく！しかたねゝな！コイツで一気に決めてやる！」

ファイズはファイズポインターを腰のベルトから外してミッションメモリーをセットする！するとスコープが伸びて

【ready】と音声で鳴りブーツにセットする！そしてファイズフォンを開いてボタンを押し【Exceed charge】と音声で鳴り

ファイズ「決めるぜ！来いよ！」ファイズはドラゴンを挑発する。
ドラゴンはファイズの挑発に乗ってしまい突進してくる！

メロディー&リズム「危ない！え！」

ファイズ「セイヤ！」

ファイズは何とカウンターキックで相手を蹴ると同時に相手を円錐型のエネルギーでロックしのだ！ドラゴンは衝撃でよろめく！

ファイズ「行くぜ！クリムゾンスマッシュ！おりゃあああ！」

ファイズはそのままジャンプして、キックの体制に入り円錐型エネルギーの中に入り、まるでドリルのように相手を貫く！そして瞬間移動した後、地面に【スタット】立った！

そしてドラゴンからファイズのマークが現れた！だが！

ファイズ「なに！」

何とドラゴンはファイズのマークを破壊して、クリムゾンスマッシュを無効にしまったのだ！

ビート「ファイズの必殺技まで！」

ファイズはやれやれと首を振りマスクの中で困った表情をする！

ファイズ「ヤバいな…どうしようか？」

続く！

出勤！ライオトルパーズ！オルフェノクの謎！（後書き）

next Faiz 激走！アクセルフォームの力とプリキュアの
パワー！

激走！アクセルフォームの力！カイザとサイガ登場！（前書き）

お待たせ？しました！いよいよアクセルフォーム！カイザとサイガ
登場です！

ではs t a r t u p！

激走！アクセルフォームの力！カイザとサイガ登場！

ファイズ「まったく！しかたね〜な！今度はコイツで勝負してみるか！〜」

ファイズはカメラ型パンチングユニット、ファイズショットにミッシェンメモリを差してグリップを出して握る！

ファイズ「メロディー！リズム！ビート！合わせるぞ！〜」

メロディー「えっ？何を？」

ファイズがコケてから言う！

ファイズ「必殺技だ！バカ！」

メロディー「バカって何よ！ひどい！」

怒るメロディー

リズム「まあまあ、メロディー落ち着いて！狼君もちゃんと一言ない駄目よ！」

ファイズ「悪かったな！とにかく技を合わせるぞ！」

リズム「わかったわ！」

ビート「任せて！」

三人は必殺技の体制に入る！

一方のドラゴンは先ほどのダメージがある為動けない！

メロディー「奏ましよう！奇跡のメロディー！ミラクルベルティエ

！おいで！ミリー！」

リズム「刻みましょう！大いなるリズム！ファンタスティックベルティエ！おいで！フリー！」

ビート「弾き鳴らせ！愛の魂！ラフギターロード！おいでソリー！」

メロディーとリズムはベルティエをビートはラフギターロード取り出してフェアリートーンをセットして

ビート「チェンジ！ソウルロード！」

ビートがモードチェンジをした後三人は

三人「駆け巡れ！トーンのリング！」

メロディー&リズム「プリキュア！ミュージック・ロンド！」
「ビート「プリキュア！ハートフルビート！ロック！」

三人のリングがドラゴンを固定する！

ドラゴン「ぐおおおおおおお！」

三人「今よ！」

ファイズ「サンキュー！行くぜ！グランインパクト！うー！」

ファイズはファイズフォンを開いてボタンを押し閉じて【Exchange charge】と音声が鳴ると同時に飛び上がりパンチ技のファイズショットで必殺技！グランインパクトを発動してドラゴンに強烈なパンチを叩き込む！

ドラゴン「がは！」

するとメロディー達が

三人「三拍子！ 1・2・3！ファイナーレ！」

とファイズマークが浮かぶと爆発し同時にポーズを決める！

メロディー「やったわ！」

リズム「これでオルフェノクも！えっ！」

ビート「そんな！」

何とドラゴンは4人の必殺技に耐えきっていたのだ！しかも姿が変わっていて、より竜らしい姿に変わっていた！

そして放叫を上げる！

ドラゴン「ぐおおおおおおおん！」

ファイズ「おいおい！ウソだろ！グワア！」

ファイズはドラゴンのパンチを食らって吹き飛ばされてしまった！

メロディー&リズム「狼君！は！」

ビート「危ない！ビートバリア！」

三人に尻尾が襲いかかってきたが！ビートがビートバリアを張り仲間を守る！

するとドラゴンは目標をファイズからプリキュア達に変えて襲う為にビートバリアに攻撃する！

ビート「ぐー！なんて強い力なの！」

メロディーとリズムはビートにバリアを張るパワーを送っている為に動けないのだ！

メロディー「必殺技をあれだけ受けても倒れないなんて！くっ！」
リズム「どうすればいいの！」

ファイズ「せめてあれが完成していれば！グッ！」

ファイズは何か立ち上がりフォンブラスターを使おうとしたが、手に力がいらない！さらに激しい攻撃でビートバリアにはひび割れが入って来た！【ピキピキ】

ビート「ダメ！持たない！」

2人「くっ！」

絶対絶命のピンチ！

とその時！

？「そこまでだ！変身！」

【S t a t i n g ・ b y ・ c o m p l e t e】とファイズフォンより低い音声が鳴ると同時に？の正体！富岡成二がサイドバツシャーに乗りながらカイザフォンをドライバーにセットして変身しやって来た！

カイザ「うお〜！」カイザはサイドバツシャーの操作パネルを触りサイドバツシャーをバトルモードに変形させてドラゴンと激突してドラゴンを吹き飛ばして壁に食い込ませる！

ドラゴン「ぐおおおおおおおん！」

狼「兄貴！」

メロディー「成二さん？え〜！」

リズム「成二さんも仮面ライダーだったの！」

ビート「その仮面ライダーは一体？」

カイザ「これはファイズのプロトタイプのカイザだ！今は俺専用スーツとして使っているんだ！ワ〜ハハハハ！」

高らかに笑うカイザ！

メロディー「笑い過ぎ！」

ビート「笑っている場合じゃないでしょう！」

ビートはバリアを解除する！

リズム「もう！成二さんたら」

カイザ「すまんすまん！」謝る成二

カイザ「俺は部屋にこもるのが嫌いだね！時々戦いに参加するんだ！」

ビート「ありがとうございます！成二さん！」

カイザ「いやいや大した事はない！ああそれと！」

カイザはサイドバッシャーをビークルモードに戻して荷物入れから小さなトランクケースを取り出して、鍵を開けて腕時計型アイテム、ファイズアクセルを取り出す！

ファイズ「兄貴！それ完成したのか！」

カイザ「ああ！たった今完成したんだ！せっかくだからコイツのお試しタイムだ狼！」

ファイズ「ああ！」

メロディーは呆れて抗議する

メロディー「腕時計なんかいらないわよ！もっと強い武器とか！」

抗議し始めるメロディーだったがファイズはやれやれと首を振りながら、ファイズアクセルを左腕に装着して言う！

ファイズ「ただの腕時計な訳がないだろ！コイツがファイズ強化アイテムさ！まあ、見てな！」

メロディー「へ？」

リズム「一体なにを？」

ビート「腕時計が強化アイテム？」

ファイズはファイズショットをしまいもう一度ファイズポインターにミッションメモリーを挿入してブーツにセットする！

メロディー「同じ技使う気なの！」

ファイズ「同じ？違うな！見ていな！」

リズム&ビート「でも！」

カイザ「心配するな！そのアイテムは…マズい！動きだしたか！」
ドラゴンが動き始める！

カイザはサイドバツシャーをバトルモードに再び変形させてカイザ
グレイガンを持ち叫ぶ！

カイザ「時間稼ぎは任せる！」

ファイズ「頼んだぜ兄貴！」

カイザは一斉射撃でドラゴンを攻撃して足止めをする！

カイザ「喰らえ！いけ！」

ドラゴン「ぐおおおおおおおん！」

ファイズは素早くアクセルメモリをファイズフォンにセットする
！すると【complete】と音声で鳴りファイズの胸の装甲が
開いて両肩に移動し中身が丸見えになる！そして赤いラインがシル
バーに変わり目が黄色から赤色に変わる！

ファイズは十秒間だけ通常の千倍の速さで動けるアクセルフォーム
にフォームチェンジしたのだ！

メロディー「姿が！」

リズム「変わった！」

ビート「一体？」

三人も驚く！

ファイズAF「これがアクセルフォームさ！さあ！一気にケリを着
けてやるぜ！」

ファイズAFはファイズアクセルのボタンを押す！すると【Sta
rt・up】と音声が入りファイズが消えた！

メロディー「消えたわ！」

リズム「まさか！有り得ないわ！」

ビート「見て！オルフェノクが！」

見るとドラゴンからファイズマークが上がり青い炎と共に砂なつて
倒れてしまった！

そしてファイズがアクセルフォームからノーマルに戻っていた。

ファイズ「ふう！」

決めるファイズ！

三人「どうなっているの！」

カイザ「ははは！これを見てくれたまえ！」

カイザがサイドバッシャーをまたビークルモードに戻して映像を見せる！

三人はモニターを見るとそこにはファイズAFがファイズアクセルを押した後の映像が映っていた。ファイズAFは超速スピードでドラゴンに近寄って格闘技を超速スピードで叩き込みトドメにアクセルクリムゾンスマッシュを連続で叩き込んだのだ！

ファイズAF「喰らえ！アクセルクリムゾンスマッシュ！ハア、トウ、ヤア〜」

連続でクリムゾンスマッシュが命中してドラゴンは

ドラゴン「ぐおおおおおおお！」

ドラゴンからファイズマークが出て青い炎が上がり、ファイズAFのファイズアクセルは【three！two！one！Time out！】そしてファイズAFのアーマーが閉じて【Reformation】と鳴ると同時にアクセルメモリーフォンから抜く！

メロディー「？これどういう事？」

リズム「瞬間移動？」

ビート「成二さん教えて！」

カイザがうなずき説明する。

カイザ「ファイズAFは通常の千倍の速さで動く事が出来る、超高速形態なんだ！だから私たちには見えなかったんだよ」

メロディー「そうだった！」

リズム「なるほどね〜！」

2人は納得したがビートは一つ気になっていた。

ビート「ねえさっきファイズAFの腕時計からtime outって音声が出なかった？」

カイザ「アクセルフォームは十秒間だけしか変身出来ないんだ！」

メロディー「どうしてなの？」

カイザ「アクセルフォームは確かに凄まじく速く動けるようになるがスーツが変化したフォトンブラッドを制御しきれなくなるんだ。」

まあ、十秒以上も使用は可能だが、自分自身をフォトンブレードを浴びて死んでしまう危険がある！だから限界が十秒なんだ！」

リズム「なるほどね」

ビート「力の使い方間違えたら危ない力か……！大変！みんなあれを見て！」

ビートが指を差した方向を一齐に全員が見ると

ライオトルパー達が吹き飛ばされていた！

ライオ達「うわああ！がああ！」

ファイズ「おい！大丈夫か！」

全員が傷ついたライオトルパー達に駆け寄る！

カイザ「何があった！まさかオクトパスに！」

ライオ「いいえ！ちっ違います！ヤツですオクトパスは我々が片づけましたが！ガク！」

ライオ達は気絶してしまう！

メロディー「しっかりして！ヤツって誰よ！」

リズム「成二さん！ヤツって？」

カイザ「最強かつ最悪なZの弟オルフェノク、Dだ！」

メロディー「D？」

リズム「どうしてわかるんですか？」

カイザ「この爪後だ！」

よく見るとライオ達全員同じ爪後があったのだ！

すると奥からDことタイガールフェノクがニコニコ笑い？ながら出てくる！

ファイズ「やはりお前だったか！」

タイガー「あゝれ？お人形さんかと思ったら、狼君だ！遊ばよ！」

まるで子供のように話しかけてくるタイガー！

ファイズ「テメェ！よくも俺のチームを……！ぶっ倒してやる！」怒りに燃えるファイズ！

一方メロディー達は思わず身震いする

メロディー「コイツ気持ち悪いわ〜！一体何なのアイツ？」

リズム「子供なの？あれ？」

あまりの不気味さに震える2人

ビート「しっかりして！ただの演技よ！」

だがカイザは首を振り言う

カイザ「違う！アイツは精神が何らかの理由で崩壊して、幼い子供みたいになっているんだ！しかもアイツは戦いを好み散々残酷な事をしている！」

カイザはカイザグレイガンを構える！

メロディー「そんな！」

リズム「成二さんが言うんだから本当に危ないヤツなのかも！だつたら！」

ビート「とにかく！倒しましょう！」

三人も戦闘体制に入る！

するとタイガーは！どこからも無く、ファイズドライバーと同型のサイガドライバーを腰に装着して、ファイズフォンと同時のサイガフォンを取り出す！

カイザ「あれは！」

ファイズ「まさか！」

メロディー「狼君達と同じ！」

するとタイガーは

タイガー「ふふふ！遊んでくれるんだ〜！！さあ〜たっぷり遊ばせてもらうぜえええええ！！！」

タイガーはサイガフォンに319と入力してEnterを押す！

【Statting・by】

タイガーは不気味に笑いながら！

タイガー「あはっあは！あは！あはははは！変身〜！」【Complate】とファイズフォンと同じ音声を出して仮面ライダーサイガに変身したのだ！

メロディー「あれは！」

ファイズ「奪われた帝王の仮面ライダーの1つサイガだ！」

続く！

激走！アクセルフォームの力！カイザとサイガ登場！（後書き）

next Faiz 激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！恐怖の力を持つ帝王！

【次回はお休みです！その代わりに仮面ライダー設定などをやります！】

お楽しみに！

仮面ライダーファイズの設定！（前書き）

ライダーの設定です！
ではstart up！

仮面ライダーファイズの設定！

仮面ライダーファイズ

スペックは全て原作と同じだがこの物語では、装着出来るのが犬上狼だけになっている！

なおファイズは登録した人物だけが変身出来る為犬上以外が装着すると「error」と鳴り弾き飛ばされる！

マスクドライバーシステム三号機として開発されバランスに優れており、強化ツールがこれからも増える予定！

なお装着者の犬上狼は必殺技を使う時必ず必殺技の名前を言う癖がある！

またクリムゾンスマッシュを使う前にはほとんどの場合に回転蹴りのカウンタークックから入る！

かつては犬上巧が変身していた。

仮面ライダーファイズアクセルフォーム！

原作同様ファイズアクセルのアクセルメモリーで変身するファイズ強化形態の1つで超高速形態！とてつもない超高速で相手に接近して連続攻撃を得意とする！

原作との違いは必殺技の名前が違うだけ

なお必殺技の名前はそれぞれの必殺技の前にアクセルが付く！

アクセルクリムゾンスマッシュ

アクセルスパークルカットなど

仮面ライダーカイザ

スペックは原点同様！

この物語ではファイズのプロトタイプとして制作されて、現在は富

岡成二の専用スーツとなつた仮面ライダー二号機！

カイザはファイズよりも力があるが力が強すぎた為現在は成二以外には制御が上手く出来ない。彼以外が装着する事が出来ないようにプロテクトが施されている。必殺技を使う時正式名では無く、彼オリジナル名またはオリジナル技を使う！

ゴルドスマッシュ ゴルドスマッシュ！

カイザスラッシュ カイザクロススラッシュ！

カイザグレイガンを構え突入しながらクロススラッシュに切り変える彼オリジナルの必殺技！威力が通常の時と比べてかなり高くなる！

仮面ライダーデルタ

三島甲が変身する仮面ライダー初号機！スペックは原作同様だが今作オリジナル武装もある！

ファイズやカイザのプロトタイプで基本的には武装はデルタフォンとデルタムーバーを合体させた、デルタブラスター【本作オリジナル命名】

だけだったが、後にパンチユニットでありファイズ/カイザショットのプロトタイプデルタショットが追加された！

他のドライバーと違い唯一誰でも使用が可能！

必殺技はルシファーズハンマー

デルタショットではデルタインパクト！

仮面ライダーサイガ

スペックや武器は原作同様！

エボルト【読み方ではエヴォルトとも言う】が奪取した天の帝王のベルト！

元々はファイズ、カイザ、デルタの強化ツール開発やテスト運用するために作られた実験用のスーツだったが開発者の中から十分戦闘

でも使えると言われ、戦闘用に改修したもの！プロテクトを駆ける前にエヴォルトに奪取されてしまった！

スペックはファイズを上回っている！

なお装着者のタイガーは精神崩壊して自我がほとんど無い【演技】にも関わらず！凄まじい戦闘能力を出せる模様！

必殺技は

コバルトスマッシュ

スカイインパクト

サイガスラッシュ

の3つ！

仮面ライダーファイズの設定！（後書き）

デルタの設定を先に出したのは次話で登場するからです！

え？オーガは？

オーガはもう少し後に登場する予定です！設定と説明はファイズブラスターと一緒にやります！

ではまた！

激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！天の力を持つ帝王！（前書き）

三連休なのでゆっくり書けました！
ではstart up！

激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！天の力を持つ帝王！

メロディー「あれがサイガ！」

リズム「なんなの？この感じ！」

ビート「凄く威圧感を感じる！」

メロディー達は戦闘体制を構えるがサイガの不気味な威圧感に恐怖を感じていた！

サイガは手をパンパンとし始めて

サイガ「さあ〜！キラ〜タイ〜ム」

と言い走ってこちらに向かってくる！

カイザ「来るぞ！」

ファイズ「このやろう！」

ファイズはフォンブラスターノブラスターモード、カイザはカイザグレイガンで連射を開始してサイガの動きを止めようとする！

だがサイガは背中ของ フライングアタッカーを起動して空を飛び回避する！

三人「飛んだわ！」

ファイズ「コイツ！逃げる気か！」

サイガ「逃げる〜？バ〜カ！死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ！み〜んな死んじゃえ〜！！！」

サイガはフライングアタッカーのグリップをこちらに向けて銃をムチャクチャに乱射してくる！

【ビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューン！】

ファイズ&カイザ「みんな！避ける！」

全員は何とか回避したり、建物の壁を利用して回避する！

しばらくしてサイガはフライングアタッカーの乱射を止める！

サイガ「あ〜れ〜？消えちゃた〜？」

こちらは回避したメロディーとリズムそしてカイザ

メロディー「あいたたた！もう！なんてムチャクチャなの！」メロディーには飛び散った破片が頭に当たって、たんこぶが出来ていた！リズム「メロディー大丈夫？」

メロディー「うん！何とかね　もうアイツ絶対タダじゃおかないんだから！」

半分怒り気味のメロディー

カイザ「あんまり怒るな！こんなのアイツにとっては準備体操に過ぎないだからな！」

2人「ウソッ！！あれが準備体操なの！」

と驚愕してげんなりする2人

カイザ「もしも大丈夫か？」

一方ファイズとビートは

ファイズ「ちくしょう！Zのヤツ！フライングアタッカーを強化していたのか！」

ファイズは悔しがる！

ビート「厄介な武器ね！あれって一体何なの？」ファイズ「ああ！あれはファイズの強化ツール開発する最データを取る為に開発された武器フライングアタッカーだ。」

もともと試作品段階ではあんな連射力は無かったが！まさかあんなにパワーアップしていたなんてな！く！」

サイガ「オラオラオラオラオラオラ！」

再び乱射するサイガ

ビート「厄介ね！どうしよう？」

「――」突然ジャストファイズの着メロがファイズフォンから鳴りカイザから連絡が入る！

ファイズ「兄貴？こんな時に何だよ！」

カイザ「この状況を打倒出来るいいアイデアがうかんだぞ！狼！」

ファイズは嫌な予感がすると思いいながら

ファイズ「兄貴まさかあれやるつもりじゃ〜？」カイザ「そのままかだ！熱血捨て身戦法で行くぞ！」

ファイズ「おい！それだけは辞めてくれ！ってちよつと！」

電話が切れてしまう！

向こうにいたメロディーとリズムは少し戸惑った表情をした！

メロディー「どうしたのかしら？」

リズム「さあ？」

2人は？になっていた。

一方ファイズは頭を押さえながら

ファイズ「最悪だ兄貴のヤツ熱血捨て身戦法やるつもりだ！」

ビート「熱血捨て身戦法？ナニソレ？」

ファイズ「兄貴はピンチになると危険な戦法使いたがる悪癖があるんだよ！あゝも〜最悪だ〜！！」

ビート「ナニソレ！最悪じゃない！」一方のカイザは右手にカイザグレイガンを！左手にフォンブラスターを握りしめていた！

もちろんメロディー達が止めようとしている！

メロディー達「無茶しないでください」

だがカイザは！

カイザ「大丈夫だ！任せておけ！うおおお！行くぞ！」

2人「きゃあ！」

カイザは2人を跳ねのけてサイガに向かって走りながら乱射を開始する！

カイザ「うおおお！」

【ビューンビューンビューンビューンビューン】

サイガ「うゝい？なゝん？だアイツ？」

とりあえずサイガは避ける！

カイザ「逃がさん！トオ！」

サイガは2つの武器をドライバーに戻してカイザポインターをドライバーから外してミッシヨンメモリーをセットして放り投げ自分も

右足からジャンプキックの体勢に入り飛んだ！

サイガ「うーい？」

メロディー「何をする気！」

ファイズ「必殺技を使う気だ！」

3人「えー！あんな体勢で！」

そんな事をよそにカイザが放り投げたカイザポインターが見事に右足のブーツにセットされ、カイザはカイザフォンをスライドさせてボタンを押し【Exceed charge】が発動した！

カイザ「うおおおお！喰らえ！男の魂の必殺技！ゴールドスマッシュ」

正式名ゴールドスマッシュがサイガにx印し型円錐にロックされてそのまま向かう！

サイガはカイザの攻撃を見て

サイガ「な〜ら〜！必殺技〜いくよ〜！」

サイガはサイガフォンを開いてボタンを押し閉じて【Exceed charge】を発動させた！

メロディー「向こうも同じ！」

サイガ「必殺技〜！！！」

サイガは必殺技スカインパクトを発動して高出力エネルギー弾を発射する！

そして2つの必殺技が空中でぶつかり合い激しい火花が発生した！

ファイズ「うお！すげー！」

カイザ「く！なんて力だ！」

そしてカイザが力負けて弾き飛ばされて壁に大の字で顔から激突してから地面に転がり変身が解除される！

メロディー「成二さん！」

成二「くそ〜！後もう少しだったのに〜ガク！」

とそのまま気絶してしまう！

ファイズ「兄貴〜！！！」

ビート「成二さんがやられちゃった！どうしようー！」

メロディー「でも今の私たちじゃあ攻撃は届かないし！」

リズム「せめて空を飛べれば！」

ファイズ「空を飛ぶ？それだ！なんで早く使わなかったんだ俺は！」
と言い、ファイズはファイズフォンを取り外して3824と入力し

【Jet slinger come closer】と音声が鳴る！

メロディー「一体何を入力したの？」

ファイズ「すぐわかるさ！来たか！」

ワープゲートが空中に開き大型マシン、ジェットスライガーが二機
やってきた！

ファイズ「うん？二機って事は！」

甲「援軍にきたぞ！」

三島甲だった！彼はパイロットスーツを着てジェットスライガーに
乗っていたのだ！

リズム「あれは何なの？それとあの子誰なの？」

ファイズ「あの大型マシンはジェットスライガーって言ってスマー
トブレインモーターズが開発した仮面ライダー専用特殊車両さ！あ
と1つに乗っているのは俺のダチでライバルの三島甲さ！」

甲はジェットスライガーを着陸させて

甲「よろしくね！僕は三島甲だ！うわあ！」

甲はジェットスライガーから降りる時に引っかかってこけてしま
った！

甲「いたたた！」

メロディー「大丈夫？」

甲「うん大丈夫大丈夫！さてと！戦いますかー！！！」

リズム「えっ！あなたまさか！」

ビート「仮面ライダーなの？」

甲は立ち上がって

甲「まあね！うちの司令官が何か勝手にいなくなっただけで言うから
来てみたんだけど、ボロボロになった上にサイガまで登場なんだね
やれやれ！」

甲は半分呆れ顔になりながらジェットスライガーの荷物入れからデルタトランクボックスを取り出して、中からデルタドライバーとデルタムーバー、デルタフォン、デルタショットを取り出してデルタフォン以外をドライバーに取り付けて腰にドライバーを装着する！

サイガ「だゝれゝ？」

甲「答える義理はない！行くぞ！変身！」

【Statting by】

甲が握ったデルタフォンの電源を入れて変身と叫び、デルタフォンから変身音が響きわたり、デルタムーバーに差し込むする！

すると【complete】と音声が流れ甲は仮面ライダーデルタに変身する！

メロディー「その仮面ライダーは？」

デルタ「仮面ライダーデルタさ！行くぞ狼！」

「ファイズ、ああ！乗るか！」

2人はジェットスライガーに乗り空中に浮く！

サイガ「マズイ！ みんな死んじやえ死んじやえ
死んじやえ死んじやえ死んじやえ死んじやえ
死んじやえ死んじやえ死んじやえ死んじやえ

！」

再びフライングアタッカーを連射し始める！

ファイズ「ぐ！この野郎！」

デルタ「ムチャクチャするヤツだな！」 2人は神技の腕前でサイガの乱射を回避する！

メロディー「リズム！ビート！私たちは新技で地上から援護しましょう！」

リズム「オツケ〜！」

「わかったわ！」

メロディー達は手をパンと合わせ前に突き出して叫ぶ！

メロディー「プリキュア！メロディーショット！ハア！」

ピンク色の音符が衝撃波に鳴りサイガに向かって飛んで行く！

サイガ「おっとつと！」

かわすサイガ！

リズム「プリキュア！リズムシンフォニー！えい」

今度は白の音符が衝撃波になってサイガに向かって行く！

サイガ「おっとつと！」

なんとかかわす！

ビート「プリキュア！ビートソウル！いっけ」

青い音符が衝撃波になってサイガに向かいサイガはまたかわすがバ
ランスを崩されてきた！

サイガ「マゝズゝイ！どゝしゝよゝかなゝ？」

ファイズ&デルタ「今だ！」

ファイズとデルタはチャンスと踏み切りフォトンミサイルを同時に
発射する！

サイガ「やつぱゝい！なゝんてね」

サイガはフライングアタッカーの連射でフォトンミサイルを全て打
ち落としてしまった！

ファイズ&デルタ「なに！」

そしてサイガは連射でジェットスライガーを攻撃する！

ファイズ「くそ！」

デルタ「なんてヤツだ！」

メロディー「そんな！」

リズム「もうこれ以上手がないわ！」

ビート「どうすれば！」

サイガはもう一度必殺技を使おうとする！

サイガ「さあゝ終わり あれゝ電話だゝ！」

突然サイガフォンに電話がかかってきたのでサイガが出る！

サイガ「もゝしゝもゝしあっ兄ちゃん！」

アーク「なに道草しているのだ！早く戻って来い！最愛の弟よ！」

アークからだった！

サイガ「はい」

電話を切りサイガは

こう言ってきた！

サイガ「ゴメン！お遊びおしまい！バイバイ」

サイガはその場から帰ってしまった！

ファイズ「まちやがれ！」

ファイズはフォンブラスターを素早く取り出して打ちまくる！だが一発も当たらなかった！

ファイズ「ちくしょう！ちくしょう！ちくしょう！ちくしょう！」

フォンブラスターが弾切れになりデルタが止める！

デルタ「狼！落ち着け！もうヤツはいない！」

サイガはもうどこにもいなかった。

メロディー「助かったのあたし達？」

リズム「でも…」

ビート「完全な敗北ね…くっ！」

そして雨が降って来て戦士達を濡らす！

ファイズ「ちくしょオオオオオオ！」

ファイズ達は苦い敗北を味わい引き上げたのだった。

続く！

激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！天の力を持つ帝王！（後書き）

next Faiz 狼達の世界の世界と猛特訓でパワーアップ！

狼達の世界の崩壊と猛特訓でパワーアップ！（前書き）

いつもより短めです。

理由はレッツゴー仮面ライダーのリメイクを制作し始めたからです。
ではs t a r t u p！

狼達の世界の崩壊と猛特訓でパワーアップ！

次の日の夕方！狼達はスマートの実戦トレーニングをしていた！ファイズは三人と組み手をして戦っていた！

ファイズ「ハア！トウ！ヤア！どうしたそんな物か！」

メロディー「まだまだよ！」

リズム「負けないわ！」

ビート「強くなる為に！」

成二「うむ！その息だ！」

俺たちが何故組み手をしているかって？

時間を一旦戻そう！

その日の授業を受けて昼休みの事だった

4人はベンチで昼食を食べていた。

狼と響は昨日がよっぽど悔しかったのか弁当をやけ食い気味に食べる！

狼「ひくしょう！サヒガのヤフ次あったやら」 コンビニの焼き肉ヒレカツ弁当の焼き肉を口一杯にほうばりながら話す。

響「ぜったいやいたおしいてあげやるんだきゃら！」 同じく弁当を食べながら。

奏「2人ともお行儀悪い！食べる時は喋らないの！」

【パン！パン！】

奏がどこからもなくハリセンを取り出して2人の頭を叩く！

2人は頭を押さえながら

狼「いつてゝなゝ！なにすんだよ！ってお前どつからそんな物を！しかも吹いちまったじゃないか！」 食っていた物は吹き出しました。

奏「さっき拾ったの」 ニコニコしながら

狼「お前なゝゝいてゝ！」

響「あたたた！奏く痛いじゃない！ゲホゲホ！」逆に飲み込んでムセた。

奏「2人のお行儀が悪いんです！」顔が凄く怒っている

2人「うつ！すみません…」

エレン「アハハ…」冷や汗が出ていた。

しばらくして全員昼食を食べ終わり響が狼に前から気になっていた質問をする

響「ところでさあ、狼君ってどこから転校して来たの？」

狼「俺はこの世界から転校して来たんじゃない。元々別の世界にいたんだ。」

三人「やっぱり！狼君も別の世界から来てたんだ！」

奏「別の世界の学校からどうしてわざわざこっちに転校して来たの？」

狼は重苦しく話した。

狼「俺の前の学校はない…俺の世界はもう無いんだ。」

三人「えっ！どういう事？」

狼「消えたんだ。いや正確には…滅びた！Zが反乱を起こして帝王のベルトを奪った直後にオーラに逃げ込んで俺とスマートブレインは別のオーラに巻き込まれて助かったが」

響「そんな事があったなんて…ごめん！嫌な事聞いて」

狼は首をふり優しく言う

狼「いや！帰ってすっきりしたよ！ありがとうな！」

狼は三人との戦いを共闘した影響か女の子への苦手意識が少しずつ無くなっていった。

奏「しかしなんでZは反乱をしたの？」

狼「俺にもわからない。いきなりの反乱だったからな。」

エレン「ひどいオルフェノクね、Zって…」

しばらく沈黙してから狼は

狼「悪いな重苦しい話しをして！さて！運動でもするか！」狼は明るく話す！

響「えゝ食べたばかりなのにゝ！」

奏「お腹壊すわよゝ」

エレン「止めておいたほうが…」

狼「冗談だって！ハハハ！」

しばらくみんなで笑い合い

狼「あつそれと今日スマートで戦闘訓練やるから来ないか？もちろん部活終わった後だけど…」

響「たちは互いに顔を見て相談し三人は

響「いいよ！あたしやる！」

奏「昨日のような事はもう嫌！」

エレン「私たちもつと強くなる為にやるわ！」

狼「よし！じゃあ部活後な！あつそれと南野さん…」

奏「奏でいいわよ その方が呼びやすいから」

狼「じゃあ奏…後でスイーツ部行つていいかな？俺昨日ケーキ食べ損ねたし」

奏「オツケゝ じゃあ狼君と響とエレンそれとスマートの分作つておくね

それと響今日バスケ部の助っ人でしょ？」

響「あゝ忘れてたゝ！！ありがとう奏ゝ！」

奏「どういたしまして」

エレン「でも奏なんで響の予定を知っているの？」

奏「さつき先生から伝言頼まれたの 響つたらよく予定忘れるからつて」

響「うっ！」 なにも言えなかった。

まあ、こんな感じで放課後、俺とエレンはスイーツ部の新作ケーキを食べに来ていた。部員は今日は稽古や習い事がある為忙しいのでいないらしい。

奏「はいどうぞ狼君」

狼「おゝ！！上手そうだ！いただきます！」

狼は目を輝かせて奏のカップケーキを一口切り食べる。

奏「どう？おいしい？」すると狼は顔がホニョ〜ンとなり

狼「ウマ~~~~~イ！めっちゃうまいやん！」 興奮すると関西弁出ます！

と言いつつという間に完食してしまった！

奏「良かった まだまだあるからどうぞ」

狼「マジ！やった〜！」

つと俺はカップケーキ10個たいらげてしまった。

エレン「狼君いくらなんでも食べ過ぎかと思うけど…」 ケーキを

一口食べながら言った

狼「大丈夫さ 後で訓練で動きまくってカロリー燃やすから！あ〜うまかった〜！！」

2人「狼君って響に負けなくらい食いしん坊なんだ。」 狼を見て思う2人

狼「どうしたんだ？2人とも？」

2人「なっ何でもないわ！」

狼「？」

この後俺達は奏を手伝ってカップケーキを大量に作り全員でスマイルに向かった。もちろんさっき作ったカップケーキを沢山持ってそして今は俺は三対一の組み手を終わり次の訓練を発表した。

ファイズ「よし！みんな！次はそれぞれ1対1で組み手するぞ！組み合わせは俺とビート！兄貴はメロディーと！甲はリズムでやってくれ！」

ビート「わかったわ！」

リズム「オッケー」

メロディー「よ〜し！頑張ろうみんな！」

2人「うん」

甲「よし！さあやるか！

成二「何で俺も？」

ファイズ「運動と教訓の為だよ兄貴！得意だろ？」

成二「まあな！さてやりますか！」

2人はカイザとデルタに変身する！

ファイズ「さあ！特訓開始だ」

続く！

狼達の世界の崩壊と猛特訓でパワーアップ！（後書き）

next Faiz ライダー対プリキュア！覚醒する力と新たなライダーシステム！

次回は未定です。

レッツゴーのネタ作り始めたので、しばらくは更新出来ないかも…
狼「作者さんよ！ほどほどにな！無理しないでくれよ！」

ありがとう狼君頑張ってレッツゴー仮面ライダーのリメイク頑張ります！
では！

ライダー対プリキュア！特訓と新たなライダーシステム！オーガ降臨！（前書き

お待ちせしました〜！いよいよオーガ登場です！新ライダーも出
来ればミューズ【正体がわかったら】と一緒に出す予定なのでお楽
しみに〜！

ではstart up！

ライダー対プリキュア！特訓と新たなライダーシステム！オーガ降臨！

1つ目の訓練室にはカイザとメロディーが入り特訓を開始していた！
カイザ「よし来い！」

メロディー「はあ！」

メロディーはパンチやキックで果敢にカイザを攻める！

しかしカイザはいとも簡単に避けてしまいカイザには一発も当たらなかった！

しばらくして

メロディー「はあはあ！何で当たらないの！」

カイザ「君のパンチやキックの動きや身体能力はいい！だが君の攻撃は直感と感覚が遅すぎるんだ！だから相手の動きをよく見てもっと速く攻撃してみろ！」

メロディー「わかったわ！」

メロディーはさらに速く動きパンチやキックを繰り返して攻撃する！するとカイザも同じように動き対人する！

カイザ「いいぞ！その調子だ！」

メロディー「はい！はあ！」

激しくぶつかって行く中メロディーは

メロディー「何だろうこの不思議な感覚？」

と思いながら戦うのであった。

一方その隣の第2訓練室ではデルタとリズムが戦っていた！

リズム「はあー！えい！」

リズムの攻撃はデルタに命中しているが何故かデルタは余裕で受け止めてしまう！

リズム「はあはあ！攻撃は当たっているのにどうして甲くん平気なの？」

デルタ「君は2人に比べて力が少し弱いんだ。」

リズム「えっ？でも私メロディーやビートといっしょに戦う時は力がそんなに弱くないわ！」

デルタ「確かにメロディーやビートと息を合わせてる時は強いかもしれない！でもそれはメロディーやビートの分が君を補っているに過ぎないんだ！」

リズム「そんな〜！私どうすればいいの？」

落ち込むリズム

デルタ「う〜ん。」

悩むデルタ！すると名案がひらめく！

デルタ「そうだ！今から僕が君のパワーを上げる特訓を手伝ってあげよう！」

リズム「えっ本当！ありがとう！でもどうやって？」

喜びながら？になるリズム

デルタ「これを使うんだ」

デルタは音楽プレイヤー内蔵型ラジオを訓練室の棚から取り出して来た。

リズム「ラジオ？それで何をするの？」

デルタ「これである音楽を聴いてもらいながら格闘技の練習をしてもらう！君たちは確かハーモニーパワーを高めるとパワーが上がるんだよね？」リズムはうなずく！

デルタ「ようするにハーモニーパワーを常に出せるトレーニングって事さ！」

リズム「わかったわ！」

デルタ「じゃあミュージックスタート！」

すると軽快なミュージック【ゲキレンジャーの修行の時に出たヤツ】がラジオから流れる！

リズム「え？ナニコレ？」

デルタ「さあ！リズムに合わせて！123はい！」

デルタが音楽に合わせて格闘技の手本を見せる！

デルタ「はっ！はっはっはっ！」

リズム「こう？」

リズムも動きを真似する。

リズム「はっ！はっ

はっはっ！」デルタ「そうそう！その調子だ！」

リズムはこう思いながら動いた。

リズム「なんか楽しい　これならやれるわ！」

と音楽に合わせての練習を開始を始めたのだった。

こちらは第3訓練室

ファイズとビートが激しい格闘技で戦っていた！

ファイズ「うおー！」

ビート「はあー！」

激しくぶつかり合う2人！しばらくして

ファイズ「はあはあ！よし！まず格闘戦は合格だ！次の訓練行くぞ

！」

ビート「わかったわ！次は何をするの？」

ファイズ「次はコイツらを使って訓練だ！」

ファイズが合図を出すとシエルターが開いて中からXT1の改良型で最新型のXT2が複数出てくる。

ビート「これって！あの時のロボット！」

ファイズ「の最新型さ！あのロボットはコイツらのプロトタイプでコイツらが完成型なんだ！」

ビート「へー　それでどんな特訓をするの？」

ファイズ「空中戦を鍛えるトレーニングさ！かなりキツイぞー！飛ぶ準備をしておけよ！」

ビート「え？キツイ？飛ぶ準備？どういう事？」

すると第3訓練室の重量が無くなりファイズとビートが浮かぶ！【ロボット達は固定されている為浮かばない】

ビート「何で無重力なのー！」

ファイズ「空中戦の感覚をつかむ為に無重力にして訓練するのさ！

来るぞ！」

ロボットからペンキ弾が発射される

ビート「ちよつと待って！まだ心の準備が！う！」慌てたビートの顔にペンキ弾が見事に命中する！

ビートはペンキ弾食らって怒る！

ビート「ちよつと！狼くんずるいわよ自分だけマスクしている…」

ファイズを見ると同じく顔に命中していた！

ファイズ「この訓練マジキツいからな！気をつけるよ」ペンキ弾付いたまま言う

ビート「って何でペンキ弾使ったのって！」

ペンキ弾がビートの身体に命中する！

ビート「！ちよつと！」

ファイズ「ペンキ弾を使うのは敵の攻撃の重みを感じる為だ！とにかく避けながらあそこのロボット達を倒す！それが俺たちの訓練だ！行くぞビート！」

ビート「わかったわ！行くわよ！」

そして約二時間後、

メロディー「ぜえぜえ！みずず」やり過ぎて疲れた。

カイザ「はあはあ！良い運動だったな！」右に同じく！

デルタ&リズム「うーん！楽しかった」ニコニコ笑顔の2人

ファイズ「ふう！疲れた！」ペンキまみれ

ビート「早くシャワー浴びたいわ！」同じくペンキまみれに

それから数分後全員変身を解除してシャワーを浴びてさっぱりして綺麗になり休憩室で

奏「はい どうぞ」

奏がカップケーキを出して皆に見せる

響「お」目がキラキラ！

狼「うまそう！」右に同じく

甲【うーん！甘い物好きじゃないけど試しに食べてみるか】
全員「いただきます」

みんな奏のケーキを食べてホニョーンとなる！

甲「うま〜い甘い物嫌い治った〜！」 何故か治った？

成二「うおおおおおおおん！ウ〜マ〜イ！」 感激で涙を流しながら食う！

奏「良かった」 ニコニコ笑顔

そして響以外食べ終えて成二が訓練の内容と新しいライダーの説明を始める

成二「訓練は順調だからこのままでもいい〜！」

奏「はい」

狼&響&エレン「げっ！」 嫌そうな顔をする三人

成二「？まあいいだろう。もう一つ実はな新しいライダーが間もなくロールアウトするんだ。」

全員「新しいライダー？」

成二「開発コードネーム666！名前はディガンマだ！イニシャルはだ」

奏「ディガンマ？」

成二「ファイズのこれまでのデータを生かして新たに設計された新ライダーシステムだ！試作品もすでに出来ているぞ！」

アタッシュケースを取り出して中身を見せる！中にはスライド式の携帯電話ディガンマフォンとドライバーが入っていた。狼「武器はないのか？兄貴？」

成二「まだ開発中だ。だがまもなく試作品が完成するぞ」

エレン「これわたりしたちでも使えるの？」

成二「ああ！君たちと我々が誰でも使えるようにプログラムは…」とまさにその時！

【ブォーンブォーン！】とサイレンが鳴る

狼「何だよ！突然！」

響「食べている途中なのに〜！」

アナウンス「加音町南エリアでネガトーンおよびオルフェノク反応確認！繰り返し！」 アナウンスを繰り返し返す！

エレン「南側で？」

狼「まったく！しかたね〜な！行くか！」

成二「俺は司令部に戻る！頼んだぞみんな！」成二はエレベーターに乗って司令部に戻る。

そして狼と甲はパイロットスーツを着てジェットスライガーに乗り込み 響たちはオートスマートと言う装甲車に乗り込む！

オペレーター「ワープゲートオープン！ジェットスライガー！オートスマート！緊急発進！」

狼&甲「了解！」

ジェットスライガーとオートスマートは専用通路を走り出してワープゲートをくぐり抜ける！

そして南町の現場に到着して全員ビークルから降りてみる。そこにはトランペットネガトーンが暴れていた。

バストラ「来たな！プリキュアにライダー共！いけ〜ネガトーン！トランペット「ネガトーン」

狼「またお前らか！【オルフェノクがいない？どういう事だ？】」

響「いいかげんしつこいわね〜！みんな行くよ！」3人はキュアモジューレを構えて叫ぶ！

3人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

3人はキュアモジューレの底を押す！

そして

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

3人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」

3人は華麗にポーズを決める！

狼「しゃあ！こっちも行くぜ！」

甲「ああ！」

2人はドライバーを腰に装着してそれぞれフォンを取り出し狼がフ

オンに555とコードを入力して2人が構えて
2人「変身！」

【Statting・by!complete x2】

と鳴りファイズとデルタに変身する！

ファイズ「それじゃあ！パーティータイム…！あぶねえ！」光弾が
飛んで来たのでデルタとプリキュア達全員が伏せる

メロディー「何なのよ！」

リズム「見てオルフェノクよ！」

リズムが指を指す方角からオルフェノクが歩いて来た。

ビート「！ファイズに似ている！」

そのオルフェノクは確かにファイズによく似ていた。

ファイズ「くっ！てめえ！やっとなれやがったな！」

デルタ「裏切り者！絶対にお前だけは許さないぞ！」

ファイズ達の前に現れたのはアークオルフェノクだった！アークは
オーガフォンをフォンプラスターにしてこちらに向けながら歩いて
来る。

Z「久しぶりだな～！狼くん！甲くん」

Zは話しながらドライバーを装着してオーガフォンに000とコー
ドを入力して【Statting・by】と不気味な音声と共に

Z「変身！」

【complete】となり金色のフォトンプラッドを出しながら
オーガに変身する！

ビート「変身した！あいつは何者なの！」

ファイズ「裏切り者のオルフェノク！Zだ！」

メロディー「裏切り者のオルフェノク！あれが！」

オーガはミッションメモリーをオーガストライザーと言う剣を取り
外してメモリーをセットする！【Ready】と鳴りオーガは剣を
引きずるようにしながら歩きこつ言い放つ！

オーガ「処刑の始まりだ！」

続く！

ライダー対プリキュア！特訓と新たなライダーシステム！オーガ降臨！（後書き

next Faiz VS 地の帝王そして振り切るぜ！

次回はスペシャルゲストで何故か仮面ライダーアクセル登場です。

お楽しみに！

V S オーガ&ネガトーン！地の帝王と振り切るエンジンとミューズの正体！（前

いよいよ正体がわかったキュアミューズの登場です。

今週の方だけは見ましたがセリフがまだ少ないので自分流にアレンジしつつオリジナルストーリーのこの作品に合わせて登場させていいただきました！

どうか暖かい目で見守ってください

あくまでもこれはオリジナルストーリーです

そしてスペシャルゲストの仮面ライダーアクセルこと照井竜も登場です

ではs t a r t u p！

V S オーガ&ネガトーン！地の帝王と振り切るエンジンとミューズの正体！

ファイズ「オーガは俺たちがやる！三人はネガトーンを頼んだぜ！」
メロディー「わかったわ！いくよリズム！ビート！ってオーガって誰？」

ずっこけるファイズ

ファイズ「アホ！見たら分かるだろ！あいつだ！あの金と黒いヤツ！」

メロディー「ああ！なるほど！ってあたしに向かってアホって言った〜！」

口喧嘩を始める2人

リズム&ビート「喧嘩は後で！」

ファイズ「ハイハイ！わかったよ」

メロディー「なんであたしが…」

トランペットが襲いかかって来たので三人は

メロディー「わたしアホじゃな〜い！」

2人「はあ〜！」

三人はトランペットに攻撃を仕掛ける！

メロディー「狼くん！後で話し合いよ！」

ファイズ「ったく！しかたね〜な」

オーガ「ふん！バストラよ！そいつらは任せたぞ」

バストラ「おう！」

この後オートバジンがバトルモードの状態でワープゲートから現れる！

ファイズは素早く近寄ってファイズエッジを引き抜きミッションメモリーをセットする。

【Ready】

と鳴りエッジが赤く輝く！

ファイズ「オートバジンプリキュア達を援護しろ！」

オートバジンが頷きプリキュア達の元へ向かう！

ファイズ「よし行くぜ！甲！」

デルタ「ああ！」

ファイズ&デルタ「うおおおおおおおお！」

2人は凄まじい気迫を出してオーガに向かう！

オーガ「来い！オオオ！」オーガも凄まじい気迫を出してライダー同士が今激しい戦いを始める！

まずはオーガがオーガストライザーでファイズを斬りつけようとするがファイズはファイズエッジで受け止めて弾き飛ばす！

オーガ「む！やるな」

ファイズ「今だ！やれ！」

デルタ「任せろ！」

デルタが蹴りを入れオーガがひざまずき腰からデルタショットを取り外してミッションメモリーをセットして左手で握る！

【Ready】

そしてデルタはデルタフォンを外して叫ぶ！

デルタ「チエック！」

【Exceed charge】

デルタ「ハアアア！」

デルタはグランインパクトをオーガに叩き込む！だが：

オーガ「ふん！」

デルタ「うわああ！」

ファイズ「のわああ！」

オーガはいとも簡単にグランインパクトを跳ね返してしまった！デルタはその勢いでファイズと共に吹き飛ばされて壁に激突する

デルタ「くそ！なんでだ！確かに手応えはあったのに！」

ファイズ「なら同時攻撃だ！」

2人は立ち上がりファイズはファイズエッジからミッションメモリーを引き抜きファイズポインターにセットする

【Ready】

そしてファイズはポインターをブーツにセットしてファイズフォンを開いてボタンを押し閉じる

【Exceed charge】

デルタはミッションメモリーを抜いてデルタショットを戻し デルタムーバーにミッションメモリーをセットする

【Ready】するとムーバーがスコープモードになった！

デルタ「チエック！」

【Exceed charge】

デルタも必殺技の体制に入る！

2人「いくぜ！ダブルライダーキック！」

ファイズはクリムゾンスマッシュ！

デルタはルシファーズハンマーを発動させて飛び上がりオーガに放つ！

ファイズ「はあああ」

デルタ「うおおお！」

だがその時！オーガの周りに邪悪なオーラが発生して必殺技が弾き返されてしまった！

2人「なに！うわああ！」

2人は再び吹き飛ばされて壁に激突してしまった！

果たしてなにが起こったのか！

一方のメロディー達は余裕でトランペットネガトーンを倒していた。三人「プリキュア！スイートハーモニーキック！」三人は見事な連係キックでネガトーンを空中に蹴り上げる

そして空中にいたオートバジンがバスターホイールを連射して地面にトランペットを叩きつける！

トランペット「ネガトーン！」

メロディー「身体軽い」

リズム「特訓のおかげね」

ビート「うん」

バストラ「何故だ！プリキュア達の動きが良すぎてネガトーンがちつとも歯が立たない！なぜだ〜！」

焦るバストラ達

メロディー「特訓したからよ！よしみんな行くよ！」

リズム＆ビート「わかったわ！」

メロディーはヒーリンググチェストを取り出して掲げる！

三人「出でよ、全ての音の源よ！」

掛け声でフェアリートーン達を呼び出して力を注ぎ、クレッシェン
ドトーンを召喚する！

三人「届けましょう、希望のシンフォニー！」

そして

三人「プリキュア・スイートセッション・アンサンブル！」掛け声
で3人が両腕をクロスしたままクレッシェンドトーンの金色の光の
炎と一体化して飛行して突撃して行く！

三人「はあああ！」

そして

三人「ファイナーレ！」

と共にネガトーンを浄化したのだ

ネガトーン「！！！」

そしてハミイがジェットスライガーの荷物入れから飛び出して音符
を浄化する。

ハミイ「ニヤップニヤ〜プ〜」

メロディー「ハミイ！あんたどっから乗ったのよ！」

浄化を終えたハミイのほつぺたを 引っ張るメロディー

ハミイ「ハミイはスマートに呼ばれて帰りきこの乗り物で送ってく
れるって言うから偶然乗っていたのニヤ〜」

メロディー「じゃあ狼くん達がメイジャーランドやマイナーランド
についても知っていたのも」

ハミイ「ハミイが教えたニヤ〜メロディー痛いニヤ〜！」

メロディー「大事な事はもつと前から早く言いなさい」
ほっぺを持ったまま両手で振り回すメロディー

ハミイ「ニャ〜！目が回るにゃ〜！」

ビート「メロディー落ち着いて！ハミイが死んじゃう！」

リズム「ダメ〜！」

メロディー「ぼふ！」

メロディーはリズムのハリセンで頭を殴られた！

メロディー「いたたた！」 頭抑えて目を回す。

リズム「メロディーごめんね ハミイだいじょうぶ？」

ハミイ「ハミイはだいじょうぶだニャ〜！」

バストラ「くっそ〜！覚えて…！」

すると突然闇のオーラが出現して中からメフィストが現れる！

メフィスト「情けないぞお前たち！下がれ！」

バストラ「はっ！メフィスト様！」

バストラ達は退散する。

メロディー「あいつは！」

ビート「マイナーランドの王メフィストよ！」

ハミイ「ニャプ！」

怖がるハミイ

リズム「メフィストが何故ここに？」

するとメフィストはオーガに話しかける

メフィスト「友よ！大丈夫か？」

オーガ「ああ！平気だ！」

2人は仲良く握手する！

メロディー「って事は！」リズム「あの2人友人同士って事？」

ビート「信じられないわ！」

驚愕する三人

オーガの周りからオーラが消える。

ファイズ「あいつがメフィスト！なるほどさっきのオーラはあいつ

か！しかも友人同士なんてマジかよ！」

ファイズ達は先ほどメフィストが別次元から発動したオーラに吹き飛ばされて壁に激突し地面に倒れて気絶していたがファイズだけ意識を取り戻して立ち上がる！

【デルタは吹き飛ばされた衝撃で変身が解除されています】

オーガ「まだ立ち上がる気か！ならば！」

オーガが闇のオーラを身体から出して強烈なパンチをファイズに放つ
オーガ「ふん！」

ファイズ「うわああ！」ファイズのファイズドライバーにパンチが当たり変身が解除され狼は吹き飛ばされた衝撃で地面に再び倒れる。
ファイズフォンは故障して火花を散らしていた。

狼「くそお！くは！」

血を吐く狼

メフィスト「フハハハハ！これで仮面ライダーもおしまいだな！」

メロディー「よくも狼くん達を！」

三人は素早くオーガに向かおうとしたが！

メフィスト「邪魔はさせん！」

三人「キャアアア！」

メロディー達もメフィストが放った闇のオーラで吹き飛ばされて壁に激突する！

メロディー「く！」

リズム「このままじゃ！」

ビート「狼くん達を助けられない！」

メフィスト&オーガ「トドメだプリキュア！仮面ライダー！」

オーラを放とうとする2人

まさにその時だった！

突然空中からバイク音が響きわたる！

【ブウウウン！】

メフィストとオーガは攻撃を中断して当たりを見渡す！

2人「誰だ！」

すると異次元からのオーラが突然現れ中からバイクに乗った赤い革ジャン男が現れる！

メフィスト「貴様！何者だ！」

オーガ「答える」

すると男は2人を睨みつけて言う

？「俺に質問をするな！」

メロディー「【いやいや！答えるべきでしょそこは！】　　と思い心で突っ込む！

その男はバイクからおりながらアクセルドライバーを装着して赤いガイアメモリを取り出しボタンを押す！

【アクセル！】

メロディー「あれって！」

リズム「ガイアメモリ！よ」

ビート「あの人一体？」三人は驚愕しながら何とか立ち上がる。

狼「竜さん？なんで竜さんがこの世界に？ぐっがは！」

再び血を吐く

メロディー「狼くんしっかりして！」

リズム「酷い怪我！」

ビート「とにかく病院に！」

狼「必要ねえ！ぐっジェ…ジェットスライガーの荷物入れから薬箱を取って来てくれ！ぐっ早く！」

再び血を吐き散らす狼

メロディー「狼くん！」

リズム「薬箱ね！すぐ取ってくるわ！」

リズムは走ってジェットスライガーの荷物入れから薬箱を取り出して戻って来た。

【メフィスト達は照井に集中していた為気づかなかった】

リズムは素早く狼の指示に従って薬箱を開き治療を開始する。メロディーとビートも手伝いながらビートが狼に聞く

ビート「狼くんこんな時に悪いんだけど、あの赤い服着た人知って

いるの？」

狼「あの人は…照井竜さんだ！兄貴の友人でダブルの世界で…刑事をやっている…俺達と同じ…仮面ライダーだ！」

ビート「だからガイアメモリを！」

リズム「血圧が下がったわ！頑張っただけだ！」

すると気絶していた甲が

甲「くっ…一体なにがどうなってる？」

甲がようやく気が付いて狼を見て一瞬で状況を理解しデルタドライバーと故障したファイズドライバーを拾い上げ狼に近寄る！

甲「おい！しっかりしろ狼！ビート変わってくれ！僕が後をやるから！」ビートが頷き素早く変わる！

竜「みんな！しばらく休んでいる！狼くんはそれ以上喋るな！」

そして照井竜は叫ぶ！

竜「変…身！」

【アクセル！】

照井竜はアクセルドライバーにアクセルメモリを装填してグリップを回す！

するとバイクのエンジン音が響き渡り照井竜の周りに赤い輪が出現して一瞬で赤い装甲を身にまとい仮面ライダーアクセルに変身した。メフィスト「お前は！」

オーガ「思い出したぞ！まさかこの世界まで追いかけて来るなんてな！照井竜！いや仮面ライダーアクセル！」

メロディー「達も驚愕していた

メロディー「うそお！あれって！」

リズム「海東さんがあの時呼び出したライダーよね？」

ビート「あの人が本当の変身者だったんだ！」

甲「手を止めないでくれ！2人共！」

2人「ごっごめん！」

一方のアクセルは

アクセル「貴様らを逮捕するまでどこまでも追いかけてやる！さ

あ！振り切るぜ！」

アクセルは乗って来たバイクからエンジンブレードを取り出してエンジンメモリをセットしてグリップを握る

【エンジン！ジェット！】

そのままエンジンブレードでオーガに切りかかる

アクセル「うおおおお！」

オーガ「ふん！」

オーガは余裕でエンジンブレードを受け止めてしまった！

オーガ「どうした？この程度か？」

するとアクセルは

アクセル「まだだ！！」【アクセルアップグレード！】

アクセルはいつの間にかガイアメモリ強化アダプターを装着してもう一度ドライバのグリップを回す！

【ブースター】

するとアクセルの装甲が黄色くなり黒い装甲とブースターそしてバイザーが装着されてアクセルはアクセルブースターに強化変身した！

オーガ「なに！」

アクセルB「絶対に！振り切るぜ！」【エンジン！マキシマムドライブ】

アクセルBはそのままオーガをつかみ空中に連れさっていき勢いよく地面に向かって投げつけて落下するオーガにブーストスラッシュを炸裂させる！

アクセル「うおおおおおおおお！」

オーガ「グワア！」

オーガは地面に叩きつけられても尚変身は解除されなかったがかなりダメージを与えたようだった。

オーガ「ぐは！く！き貴様！」

メフィストが駆け寄り友を立たせる

メフィスト「しっかりしろ！貴様よくも俺の友人を！うおおおお

おおおおお！」

ハミィ「ニャプ！」

メフィストの放叫と共に集めた音符がフェアリートーンから飛び出してメフィストに吸収されメフィストは自らネガトーン化してしまった！

メロディー「うそぉ！」

リズム「音符を全部吸収しちゃったわ！」

ビート「まずいわ！今狼くんは動かせない！ビートバリア！」

ビートは素早くバリアを張る！

メフィスト「こざかしい！」

メフィストがバリアにパンチをしようとする！だが

【エレクトリック】

エンジンブレードから電流を発生させてパンチをアクセルBが受け止めてる

アクセルB「ここは俺に任せろ！絶対に通さん！ハア！」

メフィスト「ぬぉ！」

メフィストが弾き返されて倒れる！

アクセルBはエンジンブレードを構えてメフィストに振り下ろす！

アクセルB「終わりだ〜！」

すると風が舞上がると共に黒いマントと仮面を付けた謎のプリキュア、キュアミューズがメフィストの前に立ちふさがる！

アクセルB「なに！」

ギリギリでエンジンブレードをずらしてキュアミューズとメフィストから外す！

三人「キュアミューズ！どうして！」

アクセルB「何故邪魔をする！そこをどけ！」

エンジンブレードをキュアミューズに向けるがミューズは退かずただアクセルを見ていた。その顔は悲しい表情をしながらするとドドリーが現れて話す

ドドリー「邪魔をしてごめんどド！でも待って欲しいドド！」

アクセルB「どういう事だ？」

するとミューズがメフィストに振り返り叫ぶ！

ミューズ「パパ辞めて！もうこれ以上暴れないで！」

ミューズが仮面とマントと服を投げ捨て正体を現す！

その姿はメロディー達より背が低いがメロディー達によく似た黄色の衣装を着て髪はオレンジ色でハート型の飾りを頭に着けていた！

メロディー「この子が！」

リズム「この子がミューズの正体なの！」

ビート「しかもメフィストの娘？どういう事？」

狼「あの子も俺と同じ立場なのか！」

心で驚愕して驚く狼

メフィスト「まさか！アコか！」

三人「え〜！」

メロディー「ミューズの正体はアコちゃんだったの！」

狼「アコちゃん？だれ？」

狼はメロディー聞く

メロディー「アコちゃんは奏の弟の奏太くんの同級生なの！」

狼「なっ本当かよ！ぐっ」

痛みに苦しむ狼

するとオーガが駆けメフィスト寄り話す

オーガ「時間だ！あの方がお呼びになる！戻るぞ！」

ネガトーン化したメフィスト驚いたまま！頷き

メフィスト「今日の所はここまでだな！」

2人は闇のオーラを発生させて消えようとする！

ミューズ「パパ待つて！」

だが時すでに遅く2人は消えてしまった。

ミューズ「パパ……」

天を見上げるミューズ

そして間もなくしてスマートのチームが駆けつけて全員がスマートの車でスマート内にある病院に運ばれて行った。

に続く！

V S オーガ&ネガトーン！地の帝王と振り切るエンジンとミューズの正体！（後

next Faiz ミューズの真実と狼の父親の真実！発動する新

しい仮面ライダー！その名はディガンマ

お楽しみに！

*次回が書き終わったらいよいよ劇場版のキバ達とのコラボ映画とのリンクです。

そちらもお楽しみに！

ミュージズの真実と浪の父親の真実！そして新しい仮面ライダー！その名はディザ

おまたせしました！パソコンで文章って結構めんどくさいです。

（いつも携帯だったし）

ではSTARTUP

ミューズの真実と狼の父親の真実！そして新しい仮面ライダー！その名はディザ

3日後、ここは病院内

メンバーは狼の病室にいた。

奏がお見舞いに新作ケーキをどっさり持って来たのでみんなで食べながら響が話しかける

響「具合どう？」

狼「もう平気さ！とりあえず明日には退院出来るって。」

奏「良かった」

エレン「心配して眠れなかったんだから！」

笑顔の3人だったが甲は表情が困った顔をしていた。

狼「？どうしんだ甲？ファイズギアの事か？」

甲「ああ！ファイズギアの修理は順調だよ　だが、完全に治るのは明日だ」

響「じゃあ狼くんは変身出来ないの？」

成二「いや狼はまだ変身出来るぞ！」

成二が病室に入って来て言う！その顔は笑顔だった。

照井竜と調辺音吉と調辺アコモ一緒に

狼「竜さん！」

響「アコちゃん！それに音吉さん？」

成二「先ほどまでメフィストの事を話し合いをしていた所だ…」

狼「それより！俺が戦えるって？」

成二「ああ！ディガンマが昨日遂に完成したんだ。」

響「ディガンマってこの前見せてくれた仮面ライダーよね？」

成二「ああ！その通りだ。」

奏「何で早く完成したんですか？」

成二「ダブルの世界にいた照井君に頼んで協力者のフィリップ君に作ってもらいそのまま組み込んだら予定より早く完成したんだ。」
エレン「フィリップ君が？」

三人は驚き成二は頷く

そして成二は

成二「狼試しに変身してみろ」

持ってきたトランクケースを開きディガンマフォンとドライバーを渡す。

狼「ここで変身して大丈夫なのか？」

成二「大丈夫だ！許可は取ってある。さあ！」

狼は起き上がりドライバーを装着してディガンマフォンのカバーをスライドさせてボタンを666と入力してEnterボタンを押す！

【Statting・by】

ややエコーがかかった音声が鳴り

【イメージはガタツクです】

待機音が鳴る

【キューン！キューン！キューン！】

狼「変身！」

狼はいつものポーズで変身する

【Complete】

グリーンのフोटンブラッドが発生してラインを作りファイズと同じボディを作り を斜めにずらした顔を持つ新たな仮面ライダーディガンマに変身した！

ディガンマ「すげー！ファイズの時より軽いな！」

成二「それだけじゃないぞ！デルタの音声コマンドシステムを改良した物を搭載したんだ。ツールを使う時武器の名前を言ってアクティブ！って叫べ！

必殺技もボタンを押さずに音声コマンドでチャージって叫べば使えるぞ！」

奏「つまり音声コマンドで全て使えるって訳ね？」

成二「その通り！もちろん今まで通りの使い方も出来る！」

ディガンマ「すげー！」

成二「それだけじゃない。アクセルフォームのデータを入れてある

からこれからは音声コマンドで使う事が出来るぞ！」

ディガンマ「マジかよ！じゃあ俺はこれからはディガンマで戦うんだな」

成二「いや、お前はテスト装着者だ。いずれ正式装着者は決めるが……」

ディガンマ「なーんだつまんねーな」

ディガンマは変身を解除して狼に戻り椅子に座る。

成二「まあそう言うな！ファイズにも新装備があるんだからな！だが今は秘密だ！」

響「なんで秘密なの？」

成二「それは秘密だからだ！さてアコちゃん待たせてすまなかったな」

アコ「いえ大丈夫です！」

アコが昨日の謝罪をする。

アコ「この前はごめんなさい！でもパパを傷つけたくなかったから……」

うつむき悲しい表情を浮かべる。

響「うつんアコちゃんは悪くないよ！悪いのはメフィストよ！」

だがアコは首を振る。

アコ「まずちゃんとした説明するね。パパはね元々メイジャーランドの王様なの！」

成二と竜そして音吉以外が驚く

2人「え〜〜〜〜！じゃあアコちゃんって王女様って事！」

「

狼「マジかよ！うつて事はアコちゃんの母親ってアフロディテ様って事じゃなか！」

エレンはすぐに敬語で話す

エレン「姫様！これまでの無礼お許してください！私は！」

アコ「うつんいいの！セイレーンも今は元に戻ったんだし！」

さらに話を進めるアコ

（*ここから先が長かったので本編の内容を脳内補充してください。）

アコ「パパはヒーリングチェストを取り戻すために魔響の森へ挑み、そこで闇の力に心を奪われ私たち家族を捨てて不思議な力でマイナールンドを作ったの！でもパパは本当は優しい人だから私パパを助ける為にプリキュアになったの！」

響「そうだったんだ！」

奏「だから竜さんから庇ったんだ」

エレン「しかも音吉さんが姫様のおじいさまでアフロディテさまが音吉さんの娘だったなんて！」

しばらく無言が続き響が話す

響「私ずっとなんでプリキュアがマイナールンドと戦うのかって考えたの！それってメフィストを元に戻す為じゃないかって！」

アコ「響……！」

響「それにあなたの家族の愛があればきっとメフィストを操っている敵もきつとたおせるわ！」

プリキュアメンバーは頷く

すると狼が

狼「家族の愛か……それで家族は本当に救えるのか？」

悲しい表情を浮かべながら話す狼

響「え？」

奏「狼くん？」

エレン「どういう事？」

アコ「救えないって事？」

狼は慌てて首を振り言う

狼「違うよ！アコちゃんの方じゃないよ。メフィスト王はまだ救えるかもしれない。そうじゃなくて俺の親父の事さ！」

三人「狼くんのお父さん？」

アコ「あなたのパパも何かあったの？」

狼「ああ、俺の親父はかつてここの研究員であってスマートの初代

司令官だったんだ。」

響「え〜！お父さん今どこに…」

狼「死んだんだ…いや正確には魂が死んだと言った方がいいか…」

奏「どういう事？お父さんの名前は？一体誰なの？」

エレン「それに魂が死んだって？」

狼は天上を見上げて話す

狼「親父の名前は犬上巧 俺とは違い人間でオルフェノクと人間の社会を作ろうとしてファイズとして戦い、そしてキバの世界から侵攻してきた闇の王と戦いで負けて闇の力を注がれて今はアーケオルフェノク…いやZになったんだ。」

響「そんな！」

奏「じゃあ浪くんは自分のお父さんとずっと」

すると浪は涙を流し

狼「アイツはもう俺の親父じゃない！心まで闇に侵されて体に乗っ取られた別人だ！」

ここで照井竜が

竜「それは違うぞ！君の父親を操っている正体はあるT3ガイアメモリのせいだ。」

狼「え？」

狼の涙が止まり成二以外の全員が驚愕する！

響「T3ガイアメモリって！」

奏「土さんと戦ったあの時の？」

エレン「どんなメモリなの！」

竜「コントロールのメモリだ、一番厄介なガイアメモリの一つで最初に起動させた人物が対象の人物を操るメモリだ。」

狼「元に戻す事は出来るんですか？」

竜「元に戻すにはこれを使うしかない」

照井竜はエクストリームのガイアメモリを取りだして見せる

響は困った表情になりながら読む

響「イ〜エックススリ〜ム？う〜なんて書いてあるの？」

響「イ〜エックススリ〜ム？う〜なんて書いてあるの？」

奏「エクストリームって書いてあるわ」

アコ「これで浪さんのパパを救えるんですか？」

竜「ああ！この量産型エクストリームメモリなら出来るはずだ。それにエクストリームメモリには相手のメモリを無効にできる力がある。だが相当苦しい戦いになるだろう、今日はゆっくり…」

（ブーンブーンブーン）

突然緊急サイレンが鳴り響きアナウンスが鳴る！

アナウンス「加音町中心街でメフィストが出現！隊員はすぐに出動してください！繰り返しします」

成二「よし！みんな行ってくれ！」

三人「はい！」

竜「まかせろ！」

狼「兄貴！俺も！」

成二「バカ言うな！お前はまだ治ったばかりじゃないか…」

だが浪は

狼「頼む！アコちゃんの為にも行きたいんだ！父親を取り戻す為にも！」

浪の目には力強い何かがあった。

成二「わかった。だが無理はするな！」

狼「ああ！」

こうして全員現場に向かうのであった。

つづく

ミューズの真実と浪の父親の真実！そして新しい仮面ライダー！その名はディザ

NEXT FAIZ 決戦！メフィスト対ライダー＆プリキュア！そ
して新たな敵！

決戦！メフィスト&オーガ対ライダーズ&プリキュア！新たな敵の登場と新たな

決戦と書きながらまだ映画版には行かないかもしれません。

理由は先週のハロウィンの回をオマージュした作品を作りたいからです。

ではSTARTUP

決戦！メフィスト&オーガ対ライダーズ&プリキュア！新たな敵の登場と新たな

狼たちが現場に到着すると、ライオトルーパーがメフィストに対してアクセルレイガンで応戦をしていたが、メフィストが拳で地面を殴り吹き飛ばす！

メフィスト「小賢しいわ雑魚ども！出て来い！キュアミューズ！」
ライオ「うわあああああ！」

吹き飛ばされるライオ達！

狼「なんかこの前よりパワーアップしてるな！」

メフィストの見た目は変わらないがパワーが比べ物にならない物になっていた。

響「でも！やるしかない！ここで決めなきゃ女がすたる！」

アコは思いつきり叫ぶ！

アコ「パパ！もうやめて！」

だがメフィストには届かない！

エレン「姫様！ここはわたし達が止めます！下がってください！」

アコ「でも！」

奏「アコちゃんは今私達がピンチの時に助けてくれたじゃない！だから今度は私達が！」

響「助ける番だよ！」

甲「止めてみせるさ！」

竜「父親は俺達が救ってみせる！」

狼「行くぜ！みんな！」

アコ以外それぞれの変身アイテムを取り出す！

狼は素早くデイガンマフォンにコードを入力しデルタフォンを握った甲と共に叫ぶ

狼&甲「変身！」

【Statting・by】【Completex2】

2人はデイガンマとデルタに変身する！

三人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション」
メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディー！」
リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」
ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」
三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」
ポーズを決める三人！

【アクセル】

竜「変身！！」

ドライバーにメモリをセットする！

【アクセル】

エンジン音が響き渡りアクセルに変身しエンジンブレードを振り上げ
アクセル「さあ！振り切るぜ！」

全員メフィストと対人する。

まずはプリキュア達が走り攻撃を開始する！

メロディ達「ハアッ！」

メフィスト「フン！効かぬわ！」

三人「きゃあああ！」

たった一発のパンチだったが破壊力が凄まじく勢いで吹き飛ばされる3人

だがなんとか体制を直して着地する

メロディー「く！」

リズム「うっ！」

ビート「なんて力なの！」

互いに支え合いなんとか立ち上がる！

ディガンマ「く！」

アクセル「こいつ！」

デルタ「だったら！」

ディガンマはポインターをセットしデルタとアクセルもそれぞれの武器にエンジンメモリとメモリを差し高くジャンプし2人は叫ぶ！
！

ディガンマ「チャージ!!」

デルタ「チェック!!」

【Ex seed charge x2】

【エンジン!マキシマムドライブ】

音声が鳴り響きそのままディガンマはライトグリーンのフォトンでロックしアクセルとデルタもそのまま突っ込む!

ディガンマ「くられ!ガンマスマッシュ!!!!!!」

アクセル「うおおおおおお!!」

デルタ「はああああ!!」

メフィスト「させるか!!」

パンチで向かえ射ち互いに激突する!だが:

ディガンマ達「く!!なんて!!なんて力だ!!うっうわあああああ
あ!!」

全員弾き返されて建物に激突する!

アクセル「なんてヤツだ!!」

デルタ「僕達の必殺技を返すなんて!!」

何とか立ち上がるライダー達

?「あたりまえだ!さらなる力を王からもらったのだからな!!」

オーガだった!オーガ同様のカラーが施されたジェットスライガーに乗ってオーガが空中に現れたのだ!

ディガンマ「Z!!いや親父!!」

オーガ「私はお前の父親ではない!!」

スライガーから降り立ち否定するオーガ

オーガ「まずはプリキュア共お前達からだ!!」

オーガはオーガストライザーを引き抜き動けないプリキュア達に向かって行く!

ディガンマ「やめろおおおお!!」

素早くディガンマレイガンを取り出して走りギリギリで受け止めてプリキュア達を守る!

オーガ「む!!」

メロディ「狼くん！」

ディガンマ「俺が相手だ！みんなは早くメフィストを浄化するんだ！」

リズム「わかったわ！」

ディガンマ「たのんだぜ！おりやあああ！」

オーガを押し出して遠ざける！

オーガ「貴様！良からう！相手をしてやる！フン！」

ディガンマ「く！」

互いに剣で斬り合い戦う親子！

メロディ「みんな！いくよ！」

リズム「ええ！」

ビート「うん！」

メロディ達はハーモニーパワーを高め手を合わせて叫ぶ

三人「プリキュア・パッションナートハーモニー！」

金色の閃光波をメフィストに向かって発射する！だが！

メフィストは受け止めてしまった！

メロディ「そんな！」

メフィスト「ハーモニーパワーなど俺には効かん！喰らえプリキュア共！」

メロディ達のエネルギーを闇に変えて縄状にしてメロディ達を縛る！

三人「きゃあああああ！」

凄まじいエネルギーでダメージを与えるメフィスト！

メロディ「このままじゃみんなやられる！ああ！」

悲鳴をあげる三人

メフィスト「死ぬ〜！プリキュア〜！」

デルタ「やめろ〜！ファイヤ！」

【Burst Mode】

デルタブラスターで光弾を放ち攻撃するデルタ

メフィスト「小ざかしい！小僧！」

片手で防ぎデルタを殴り飛ばす！

デルタ「うわあああ！」

吹き飛ばされ変身が解除される甲！

アコ「みんな！」

アクセル「そうはせん！」

アクセルは立ち上がり挑戦の記憶が入ったトリアルメモリーを取り出して変形させて素早くセツトし走る！

【トリアル！】

スタートランプの音と共にアクセルの色が一瞬ブースター同様になりそして装甲が軽い物に変わり一瞬で青いボディを持つ高速戦士アクセルトリアルに変わったのだ！

メフィスト「なに！」

アクセルTはブレードをもったままトリアルメモリーを引き抜きボタンを押すと放り投げもう一度ブレードにマキシマムをかける！

【エンジン！マキシマムドライブ！】

そしてそのまま凄まじい速さで縄を連続切りで切り裂きそしてメモリをキャッチしておく

【トリアル！マキシマムドライブ】

アクセルT「9：8秒！それが仲間を救うタイムだ！」

と言った直後プリキュア達が解放される！

メロディー「助かった！ありがとう竜さん！」

アクセル「礼はいい！だがこのままだとまずいな！」

リズム「えっ？」

ビート「みんな！危ない！」

メフィストはさらに怒り狂い四人に攻撃をする！

メフィスト「おのれえええ！」

アクセルT「避ける！」

メロディー「うわあああ！」

リズム「なんて力なの！きゃ！」

ビート「どうすれば！」

なんとか避ける四人！

さらに暴れまわるメフィスト！

メフィスト「貴様ら~~~~！」

辺りをめちやくちやに破壊するメフィスト！するとアコが飛び出し
叫ぶ！

アコ「パパもうやめて！優しいパパに戻って！」

メフィストが止まりこちらを見る

メフィスト「うゝ！」

突然頭を抑え苦しみだす

ドドリー「今だ！変身を」

うなづくアコ

アコはキュアモジュールを取り出して叫ぶ！

アコ「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

降り立ちまっすぐ父親を見つめる！

メフィスト「うつつアコ！うわああああ！」

突然体から闇のオーラが発生したのだ！

ミューズ「パパ！」

アクセル「まずい！このままだと君の父親はさらに深い闇に飲ま
れる！助けるならいまだ！」

うなづくミューズ！アクセルは強化アダプターをアクセルメモリに
セットする！

【アクセル！アップグレード！】

そのままドライバーに差し込み【ブースター！】と音声がりアク
セルブースターに強化変身する！そしてエクストリームメモリをミ
ューズに握らせる！

ミューズ「これは？」

アクセル「君の父親に対する想いをそのメモリに注いでくれ！そう
すれば父親を救う事が出来る！」

ミューズ「わかったわ！」

ミューズは父親に対する想いをメモリに注ぎ！そしてメモリをアクセルBに渡す

アクセルB「行くぞ！」

ミューズ「ええ！」

そのままブレードに差し込む！

【エクストリーム】

アクセルB「掴まれ！」

ミューズの手を掴み飛んでメフィストに向かう

ミューズ「パパ〜！」

メフィスト「！！！！！」

アクセルB「行くぞ！」

ミューズ「うん！」

【エクストリーム！マキシマムドライブ！】

ミューズの想いを込めたメモリの力が宿ったブレードと一緒に振り上げてイヤホンを一刀両断する！

メフィスト「！！！！うお〜！」

するとメフィストが元の大きさとそのまま元の姿に戻りひざまずく！そして

メフィスト「アッアコ！」

ミューズ「パパ〜！」

互いに抱き合う親子！

アクセルB「親子の絆それが闇を砕く力だ…」

メロディー「良かった元に戻って」

リズム「ええ」

ビート「残るはオーガね！行きましょう！」

一方のディガンマはアクセルフォームで戦っていた！だが…

【3・2・1・Time Out】

ディガンマ「しまった！うわぁ！」

とうとうオーガに蹴り飛ばされてしまった！

オーガ「ふん！」

ディガンマ「ぐわあ！くそう！」

同時に変身も解除されドライバーが何所かに飛ばされて狼の姿に戻る！

メロディー「狼くん！」

リズム「いま助けるわ！」

狼「来るな！このケリは俺がつける！」

ビート「でも！」

オーガ「ゴチユゴチャうるさい！だまれ！」

衝撃波でプリキュア達をなぎ払う！

4人「きゃあああ！」

狼「よくもみんなを！うおおおおおおお！」

狼はの力を振り絞ってウルフォルフェノクに変身する！

オーガ「おもしろい！来い！」

ウルフ「うおお！」

ウルフは凄まじい速さでオーガに格闘技で挑む！もちろんオーガも反撃しそして…

ウルフ「ぐわあああああああ！」

勝敗はオーガだった！

ウルフは深手を受けたが尚何とか立ち上がる！

ウルフ「負けるかよ！親父の目を…いや父さん目を覚めさせるまで！」

オーガ「くつなんだこの感情は！うつゝ」

突然頭をかかえ苦しむ！

ウルフ「！父さん思い出してくれよ！俺だ！狼だよ！」

オーガ「だまれ！貴様は俺の息子じゃない！死ねゝ！」

オーガストライザーを振り上げる！だがその時！ 光弾がオーガの手に当たり武器を落とす！

オーガ「グワァ！」

？「相変わらずだな！だがお前らしいぜ！」

オーガ「誰だ！」

一人の高校生らしき少年が姿を現した！吹き飛ばされたディガンマドライバーを腰に装着して左手には何かが入ったトランクを持ち右手にはブラスターフォンを握っていた！その右手首には変わった形のブレス「アグレイター」が付いていた！

ウルフは狼の姿に戻り驚く！

狼「海！カイじゃないか！」

藤宮海だった！この少年は浪の幼なじみだったのだ！

メロディ「この人誰なの？」

浪「俺の幼なじみで藤宮海さ！それよりお前どうして！」

海「話は後だ！コレを受け取れ！」

受け取ったトランクを開けて見ると中には修理が完了したファイズドライバーセットが入っていた！

狼「ファイズ？でもなぜ？」

海「予定よりも早く直ったんだ！変身するぞ！」

狼「ああ！」

浪は素早く装着して2人は変身コードを入力する！

【Statting・by】【Complete x2】

同時にライダーに変身する！

ファイズ「よっしゃ！ファイズ参上！うん？」

するとオートバジンが勝手にやって来てなにやら形が変わったトランクを浪に投げ渡してきた

ファイズ「コレは？」

ディガンマ「そいつはファイズブラスターだ！変身コードをもう一回入力してフォンをセットしろ！」

ファイズ「わかった！」

オーガ「させるか！」

オーガが剣で詰め寄って来た！だがディガンマが素早くディガンマレイガンで応戦する！

ディガンマ「今の内だ！ローチャージ！」

【Exseed charge】

ディガンマは威力を抑えたイレイザースラッシュでオーガを切り裂き動きを封じる！

オーガ「うお！」

ファイズはもう一度コードを入力する！そしてフォンをファイズブラスターにセットした！すると

【Awakening】

一瞬でボディが赤くなりアーマーも変化してファイズは最強形態ブラスターフォームに強化変身する！

ファイズBF「これは？」

ディガンマ「それがブラスターフォームだ！今度は103と入力しろ！」

素早くコードを入れる！

【Blast Mode】

ファイズBF「すげー！よし！」

砲台をオーガに向ける！

オーガ「なんだそのファイズは！」

フラフラと立ち上がり驚くオーガ！するとアクセルがエクストリームのメモリを投げる！

アクセル「受け取れ！これでメモリを浄化しろ！」

ファイズBFはメモリを受け取る！するとファイズブラスターの横が開きメモリ挿入口が出現する

ファイズBFはそのままさらにメモリを差し込む！

【エクストリームマキシマムドライブ！】

オーガ「何をする気だ！ぐっ頭が！」

武器を落とし頭を抱える！

ファイズBF「父さん！目覚めてくれ！」

ボタンを押し

【Exseed charge】

と同時にエネルギーを貯めて引き金を引く！

ファイズBF「いけ〜フォトンバスターショット〜！」

【ズドン〜！】

一発の光弾がオーガに命中し変身が解除されると同時に犬上巧の姿に戻りさらにコントロールのメモリが排出され破壊されたのだ！

ファイズBF「とうさん！」

巧「狼か…すまなかったな…」

ファイズBF「いいんだよとうさん！良かった！本当に良かった！」
父親を抱く狼

メロディ「コレで一件落着ね」

リズム「うん」

ビート「良かった〜！でもどうしてメモリだけ破壊できたの？」
変身を解除した海が説明する。

海「エクストリームの力でメモリだけを破壊する様に予めプログラムが組み込まれていたのさ！だからベルトを破壊せずに巧さんを助けられたんだ。」

ビート「なるほどね〜！」

すると突然父親を連れたミューズが上を指差し！

ミューズ「！！！！みんなあれを！」

ミューズが指差した方角を見るとサイガが飛んできたのだ！

サイガ「あゝあ！洗脳とかれちゃったか！」

プリキュア達には聞き覚えがある声だった。

着地するとドライバーからフォンを外す！その正体はなんとファルセットだったのだ！

ビート「あなたがサイガの正体だったの！」

全員構える！

ファルセット「そうさ！この俺がそこにいるオーガとメフィストをあやつりノイズ様とアーク様の下部にしてやったのさ！はっははははははははは！」

馬鹿にしたように笑うファルセット

ファイズBF「貴様！絶対に！絶対に！許さない！」

メロディー「よくも2人の親を！絶対に許さない！」

ミューズ「あなただけは！絶対に！」

怒るプリキュアとライダー達！

ファルセット「やってみるよ！変身！」

再びサイガに変身して指を鳴らす

【パチン】

煙と共に消え去る！

ファイズBF「！！！！てめえ逃げるのか！」

サイガの声「戦いはまた今度なゆくりやらせてもらおう！じゃあな

！はははははははは！」

サイガは消えてしまった！

メロディー「また逃げられた〜！」

リズム「でもノイズとアークって一体？」

謎を残し消え去ってしまったサイガ！一体何が始まったのか？

ミューズ【ノイズとアーク！まさか復活が近いの？】

続く！

決戦！メフィスト&オーガ対ライダーズ&プリキュア！新たな敵の登場と新たな

NEXT FAIZ ノイズノアークの真実とわくわくハロウィン

！アゲルと豪快な海賊参上？

仮面ライダーの設定2（前書き）

とりあえずオリジナルライダーの設定です！
ではSTARTUP

仮面ライダーの設定2

仮面ライダーディガンマ

本作オリジナルライダー

ファイズの後継機として新たに開発された仮面ライダー

変身コードは666

フォトンブラッドの色はライトグリーン。

速さ以外のステータスがファイズの二倍になっている。

従来の使い方の他ダブルの世界にいたフィリップの協力で作られたプログラムのおかげでデルタ同様音声コマンドでの使用が可能になり必殺技の出力調整も可能。

また全ての武器がミッションメモリー無しで必殺技が使用可能になっている。また内蔵型アクセルフォームも搭載されている。使用可能な装着者はスマートに所属するオルフェノクとプリキュア全員が使用可能となっている。

主な装着者は藤宮 海^{ふじみや かい}

変身ツール

ベルトはファイズと同じで違いはブレード用のホルダーが付いている。

ディガンマフォン

初のスライド式携帯電話型ツール

ミッションメモリーがついて無いのが特長で画面にマークが表示されている。

フォンブラスターはカイザフォン同様にスライドさせて使う事が出来る。

ディガンマショット

基本性能はファイズ達と同様だがメモリ無しでも使用可能

ディガンマポインター

ファイズと同型　メモリ無しで使用可能

必殺技はガンマスマッシュ

基本はファイズと同じ

ディガンマレイガン

ディガンマ専用コンバットナイフ型の武器

形状はアクセルレイガンだが切れ味や破壊力が3倍になっている。

必殺技はイレイザースラッシュ

フォトンをもった巨大化したブレードで接近して相手を切り裂き
相手を倒す。

仮面ライダーオーガ

スペックなどは原作同様。Zこと犬上巧によって奪取された。

必殺技も原作同様である。

現在は奪還に成功して修理中である

仮面ライダーの設定2（後書き）

次回は登場人物2です。
ではまた

ノイズノアークの真実とわくわくハロウィン！アゲルと豪快な海賊参上？【前編

今回は前編と後編に分けて書かせてもらいます。
ではStartup！

ノイズノアークの真実とわくわくハロウィン！アゲルと豪快な海賊参上？【前編】

ここはマイナーランド！ちょうどファルセツトが王座に座り二人から講義を受けていた！

バスドラ「どういうつもりだ」

バリトン「そこは君の席では無いはず・・・」

ファルセツト「うるせえ！今日からお前らは俺の部下だ！」

突然ファルセツトはタイガーオルフェノクに変身して2人をボコボコにして膝まずける！

バスドラ「ぐわあああ！」

バリトン「お前！ぐう！」

タイガー「ついだ！お二人の偉大なる王からのプレゼントだ！」

雷が2人を襲う！

2人「うわあああああああ！」

タイガー「ははははははははは！」

果たして何が起こったのか？

つぎの日照井竜は自分の役目は終わり自分の世界にまだやる事があると告げ戻り海以外のメンバーは調べの館に集まっていた。そこで音吉からノイズとアークの話聞いていた

響「音吉さん！ノイズって何者なの？」

音吉「メフィストを操っていたノイズと言うのは全宇宙の悲しみが集まって生み出された究極の悪が集まって出来た怪物だ、ヤツは不幸な感情を好み一番嫌うのは美しい音楽などの幸福の感情で、その為ノイズはあらゆる世界の音楽を支配しようとしている。ヤツはメイジャーランドも自らの支配下にしようと当時同盟を結んだレジェンドルガの王アークと共に襲ってきたのだ！」

話を聞いていたエレンがショックを受ける！

エレン「そんなヤツに私が仕えていたなんて・・・」

落ち込むエレン

すると前にハミイから事情を聞いていた狼が

狼「気にするな！エレンは悪くないぜ！操っていたノイズが悪いんだ！」

響「そうだよエレン！」

甲「君は既に正義の味方になったんだ！な？」

奏「今は私達もいるしねっ？」

励ますメンバー

エレン「ありがとうみんな」

笑顔が戻るエレン

響「ところでレジェンドルガって？なに？」

奏「それにアークって？」

狼「知らないヤツだな！初めて聞く名前だ！」

甲「何者なんですか音吉さん？」

音吉「わたしが渡くんから聞いた話だとキバの世界に存在するファンガイアの天敵らしい！彼らはファンガイアと戦争を起こしその最拠点となる場所を探していたらとノイズと出会い同盟してメイジャーランドを襲ってきたのだ。だが何故同盟したかは渡くんも知らない」

エレン「今はどうなっているんですか？」

音吉「一度復活したが今はアークも封印されているらしい・・・」

エレン「そうだったんですか。」

しばらく沈黙し奏が

響「でもどうして同盟なんか？」

音吉「おそらく両者共に悪の力を持ち互いに利用できると思ったのだろう。だが私もアークについては詳しくは知らないんだ！すまない・・・」

しばらく沈黙が続きそしてアコが

アコ「パパや巧さんを操っていたノイズとアークを倒す方法は無いのじいちゃん？」

音吉「ノイズとアークを倒す方法はある…このパイプオルガンを完成させる事とある剣だ！」

響「このオルガン？」

狼「それに剣？」

音吉「うなずく！」

音吉「ヤツらの弱点はこのオルガンで奏でる幸せのメロディと正しき闇の力を宿した剣だ！それが弱点だ」

奏「このオルガンが…」

狼「それに闇の剣か…どこにあるんですかそれは！」

音吉「その前に君達にあの戦争の話をしておこう！私はその昔ノイズとの戦い中でファンガイアの王、キバと出会った！・・・」

場面が変わり昔のメイジャーランド！ノイズと沢山のレジェンドルガ達が音吉たちの護衛隊を次々と打ち倒しとうとう音吉一人になってしまう！

音吉「ぐっ！このままでは…！！」

とその時凄まじい閃光がレジェンドルガの大半を全滅させ来た方角のオーラに残りを吹き飛ばす！

？「何をしている人間！しっかりしろ！お前たちの世界だろ！」

違うオーラから鎧をまとった戦士が降り立つ！

音吉「あなたは？」

？「わたしはキバの世界の王だ！共に戦おう人間！」

それはダークキバだった！しかもザンバットソードを持った王だったのだ！

響「え〜〜〜〜！太牙さんが！」

狼「バカ！声でかい！」

響「ごめん続きどうぞ」

音吉「オホン、では言うぞ。残念ながら太牙くんではない！初代のファンガイアの王だ。その王は音楽を愛していた王だった為我々を助けてくださったのだ。その息子は凶暴だったらしいが…とにかく王と私は戦い何とかノイズとアークをそれぞれの世界に押し込めて

封印したのだ。」

ノイズ「ぎゃあああ！おのれ〜！」

アーク「キバ〜！！！」

互いに封印されるノイズとアーク！

そして場面は変わり音吉はキバと向き合い話す

音吉「なんとか封印はできたな！ありがとうファンガイアの王よ！」

ダーク「これくらい何とも無い！我々は自分達の世界を守る為戦っただけだ。だが気をつける人間！いずれお互いの封印は解けかもしれない！」

音吉「そんな！ではどうすれば！」

キバ「奴らを葬るには悪の力を完全に消し去る必要がある！だから聖なる幸せの楽器とこの剣に聖なる正しき闇の力を宿す必要がある。」

「
そう言つてザンバットソードを見せる

響「え〜〜〜！あの剣が！」

奏「ザンバットソードって渡さんが持つている剣よね！」

音吉「そうだ！このオルガンと剣が揃えば倒す事が可能になる、今はアークの封印の状況を調べてもらっているが・・・」

アコ「でも今もまだ聖なる闇の力見つからないんだよね？」

音吉「ああ！だが渡くんなら必ず宿してくれるだろう。」

この後池に写ったメフィストが話かける

メフィスト「わたしはとてつもない罪を犯してしまった！だから私はこのような悲劇を二度と起さない為にこのメイジャーランドをノイズとアークの脅威から我が身を挺して国を守ってみせます！」

力強く言うメフィスト

アコ「パパ…！」

アフロディテ「この人操られる前より国王らしくなったみたいなんです」

微笑みながら言う

メフィスト「ところで愛しいアコよ〜！いつ帰って来るんだ〜？今

日か？明日か？それとも明後日か？パパ待ち切れないよ！」

突然聞くメフィスト！

狼【うぜえ！なんか腹立つこの人！】

甲【我慢しろ！こらえるんだ！】

2人は何とか親馬鹿に対する怒りを押える　拳をぶるぶるしながら

アコはしばらく黙りそして言う

アコ「わたしはまだ帰らないわパパ！」

メフィスト「へ！え！何故だ！愛しい娘よ！」

泣くメフィスト

狼【だあ！泣くな！マジウざい！】

甲【我慢だ！】

またしても我慢する2人

アコは赤面になって言う

アコ「パパ恥ずかしいから辞めて！私決めたの！ノイズやオーガからこれ以上悲しみの感情を植え付けられない為にも私プリキュアとしてこの人々を守りたいの！」

強い決意で言うアコ

響「アコ……」

狼「そうか……」　怒り収まった

メフィストはしばらく黙りそして

メフィスト「そうか！よしアコが決意したならそうしなさい！でも

……！」

アコ「なにパパ？」

メフィスト「寂しくなったらいつでもパパの胸に飛び込んでおいで！いつでもパパはウエルカムしてるぞ！」

さらに真っ赤になるアコ！

アコ「……！ちよつとパパ！」

狼【なんなんだ！だこの親父は！】

甲【落ち着け！】

この後メンバーは奏の店でお茶をする事になり町を歩いていた。

響が狼に父親の犬上巧の容体を聞く。

響「パパの具合はどうなの？」

狼「良好さ！明日には退院できるよ！」

アコ「良かったね浪」

狼「ああ！ありがとうなアコちゃん！」

アコ「悪いけどアコちゃんは辞めて！アコって呼んで！」

狼「おう！わかったぜアコ！ところでさ！なんでこの人達は町の飾りつけしてるんだ？」

よく見ると町は明日のハロウィンの飾り付けでハロウィンムードで一色だった。

アコ「何しているのあれ？」

響「ああアレは！あっ！おばちゃん手伝うよ！」

おばちゃん「あら響ちゃん！ありがとう！」

手伝う響！

奏「アレはハロウィンって言って海外で昔からある秋のお祭りの一つなの！みんなで仮装してお菓子をもらうのよ」

エレン「へー！なんかおもしろそう！」

狼「初めて聞く祭りだな！なあ甲！」

甲「ああ！そうだな！」

アコ「ふーん！」

奏「エレンやアコは仕方ないにしてもあなた達も知らないの？」

狼「ああ、俺達が前に住んでいた世界では無かったんだ！だけど面白そうだな！よし行こうぜ！【久々にあの仮装するか】」

思わずニンヤリする浪！

甲【ゲッ！まさかこいつあの仮装するつもりかー！】

三人「？」

そして奏が

奏「でもその前に私達もお手伝いしましょう？お祭りは明日からだし」

狼「オツケー！じゃあオートバジンにも手伝って貰おう！」

狼はフォンでオートバジンを呼び出しみんなで手伝い始める。

【オートバジンは普段からこの町をパトロールする警備口ボになっているため皆知っています】

その頃空ではゴーカイギャレオンがちょうど到着していた。

マーベラス「ここが占いの場所！加音町か！」

アイム「きれいな場所ですねー！」

ジヨー「しかしあの占いはな〜！」

ルカ「なんと言うか」

ハカセ「ああと言うか」

鎧「変わってましたね〜ここでどんなスーパー戦隊じゃない戦士の
人と会えるのかな〜！」

それは昨日の事だった。

いつものようにメンバーは大いなる力の在りかのヒントの占いをナ
ビイの占ってもらったのだ！

マーベラス「おい鳥！今日の占いをしろ！」

ナビイ「だから！まっいいやレッツお宝ナビゲートタイム〜！」

いつものようにゴチンとあたりしゃべる

ナビイ「音楽の奏でる町で中学生の女の子戦士と中学生の仮面戦士
を助けると良い事あるよ〜！ってこんなの出ました〜！」

ルカ「ハっ何ソレ？音楽の奏でる町？」

ハカセ「それに中学生の女の子戦士に仮面戦士？どう言う事だろう
？ねえ鎧！わかる？」

鎧「さあ？中学生のスーパー戦隊は聞いた事はないですねドンさん
…あつ！でも音楽を奏でている町なら俺知ってますよ！」

ジヨー「本当か！」

マーベラス「よし！とりあえず行ってそいつらを探して見るか！鎧
！場所は！」

鎧「加音町ですよマ・ベラスさん！明後日にはハロウィン祭も開か
れるみたいですし」

マ・ベラス「ハロウィン？なんだそれ？」

鎧「仮装してお菓子をもらうイベントですよ！実は昨日買出しでこんなチラシもらったんです。」

6枚のチラシを取り出してメンバーに配り見せる

【加音町ハロウィン祭10月31日開催！参加は無料です！仮装好きな方お待ちしています！】と地図と共に書いてあった【裏面にはウルトラマンゼロが来る！って宣伝も書かれています】

ルカ「へーお祭りか！楽しそうじゃん！」

アイム「せっかくですからこちらも行ってみませんか？」

マ・ベラス「馬鹿！祭りなんて海賊が行けるか！大体俺達はな！」

ジョー「いいじゃないかマ・ベラス！ザンギヤック達は最近動いて無いようだから休暇がてに大いなる力探ししても」

ハカセ「そうだよ！しかもかぼちゃパイ食べ放題だし！」

鎧「そんな事書いてませんけど……」

ジョー「よく見る！食事無料券が一枚付いているぞ！」

【おいしいかぼちゃパイ食べ放題！お一人用！】

確かにこう書いてあって付いていた！

マ・ベラス「ほう！そのかぼちゃパイって旨いのか！」

鎧「はい！絶対旨いですよ！」

マ・ベラス「なら決まりだ！行くぞ！」

ハカセ【パイで釣られちゃった】

こうしてゴーカイジャーのメンバーはハロウィンが開催される加音町にやってきたのだ。

【船は目立つと面倒なので風雷丸に隠してもらいました】

【ちなみにザンギヤックがなぜ休んでいるかと言うと司令官ワルズ・ギルがまた風を引いたのでお休み中です】

町に下りて辺りを見渡す

マ・ベラス「うん？まだ準備しているな……」

ハカセ「今日は30日だよ！明日あるみたい！どうする？」

マ・ベラス「なら取りあえずその戦士を探るか！」

ルカ「だね！え」と中学生つと！おつ！あそこ見てよ！」

ちようど狼たちが作業を終えて奏の家に向かっていている浪達が見えたのだ！

ジヨー「あのメガネの子以外は中学生ぽいな！」

ルカ「ちよつと聞いてみよつか？ねえ君達ちよつといい？」

狼「え？」

指を自分に指し反応する

ルカ「うん！その君達よ！ここでさ、女の子戦士と仮面戦士知らない？」

狼は首を振り答える

狼「ごめんなさい！知りません！お姉さん悪いけど何の話ですか？つて言うか誰ですかあなた達？【やばく俺達の事じゃん】」

【響達はいきなり話しかけられた為びっくりして固まっています】

ルカ「悪かったね！ちよつとした人探しだよ」

マーベラスは黙ってこちらを見ていた。

ジヨー「邪魔したな！」

アイム「お邪魔して申し訳ありません。」

ハカセ「じゃあ僕達行くね！さあマーベラス行こう！ね？」

マーベラス「ああ！【あのガキなんか隠しているな！】」

鎧「まっまってください皆さん！」

こうしてゴーカイジャーのメンバーは行ってしまった。

狼「びびった」なんで俺達の事を？でもあの人たち何所かみたような？」

奏「わたしもあるわ！テレビのニュースで見たような？」

甲「変わった服装だったような？」

エレン「それにしてもあの赤い服の人の服装なんだか海賊の船長ぽかったような…」

アコ「何者だったのかしら」

響「さあ？とにかく仮装の準備しよう！」

こうしてみんな奏の家に向かって行きおいしいケーキと紅茶をご馳

走になったのだった。

後編に続く！

ノイズノアークの真実とわくわくハロウィン！アゲルと豪快な海賊参上？【前編】

Next Faiz ノイズノアークの真実とわくわくハロウィン！アゲルと豪快な海賊参上？【後編】

次回狼のライバルで幼なじみの海がいよいよアゲルに変身します！
後狼はウルトラマンのコスプレします！ではお楽しみに！

ノイズノアークの真実とわくわくハロウィン！アゲルと豪快な海賊参上？【後編

いよいよアゲル【V1】とスペシャルゲストのゴージャスな登場
です！

ではSTARTUP！

次の日奏の家で狼以外のメンバーが集まり仮装していた

響＆エレン「おお〜！」

甲「いいんじゃない？」

アコはお姫様に！奏は力ボチャの妖精に仮装していた！

アコ「奏！何これ！」

赤くなり照れるアコ！

奏「アコ〜かわいいわ〜」 自分の仕事ぶりに惚れ惚れしていた

アコ「ちよつと〜！私まだ参加するって…」

響「じゃあ私達も！」 響がさえぎる！

響は海賊に！エレンは猫！ハミイはケーキ！甲は王子様だった！

甲「えっ？なんで僕が王子なんだ？」

奏「当たり前でしょ！お姫様いるんだから王子様いなかったらおかしいし！【本当は狼くん用だったんだけどまだいないし丁度良かったわ〜】」

ニコニコ笑いながら話す奏

甲「まあいつか」

アコ「だから私行くって…」

エレン「いいじゃないですか姫様〜！」

アコ「エレン！姫様は辞めて！」

エレン「えっ？」

ハミイ「アコって呼ぶニヤ！」

エレン「じゃあ・・・アコ行きましょう？」

アコ「嫌！」

甲「おいおいまだ狼来てないぞ！出発はもうちよつと？あつ来た！」
狼はなんと本物のウルトラマンゼロのコスプレをしてやって来たのだ！

狼「ようみんな！」

響「なにそれ〜！」

狼「ウルトラマンゼロ！セブンの息子だ！ジュワ！」

ポーズを決める！

奏「なるほど〜ってウルトラマン？なんで！」

狼「好きなんだウルトラマン！」

アコ「なんか私より凄いかも…」

こうしてお祭り会場に移動しバンパイアの仮装をした奏太と出会う

場面が変わり会場

奏太「おお〜！」

可愛さにびっくりする奏太

アコ「なっ！何よ！」

奏太「いや〜まさかアコがそんな格好で来るなんてさ〜！」

アコ「無理やり着せられちゃったのよ！」

少し怒るアコ

響「どう？見違えた？って言うかホレタ？」

奏太「うんってなんて事聞くんだよ響！」

奏「照れてるじゃない〜！」

奏太「違います〜！！」

照れる奏太

響「ほらほらアコも見てみなよ？」

アコ「わっわたし！あっち見てくる！」

とことと言ってしまう

響は微笑みながら

響「なんかアコってかわいいよね〜」

奏「かわいい妹が出来たみたいよね〜」

エレン「妹か」

甲「そうだね」

狼「ああ！うん？」

するとちびっ子が狼に気づいて叫ぶ
子ども「ああ！ウルトラマンゼロだ〜！」
子ども達がわらわら集まってくる！
狼「【おっ！早速来たな〜】みんな〜待たせたな！ジューワ！」
決めポーズを取って子供達が喜ぶ
子ども達「うわ〜い」
響「え〜！どうなっているの〜？」

一方のアコは一人樹の下に移動していた

アコはスカートを引っ張りながら

アコ「意味分らない…なんで仮装なんか…」

？「なに悩んでるんだ？」

海が何所からも現れる！

アコ「あつ海！」

海「おいおい俺はコレでも高校生なんだぜ？せめてさん付けしてくれよアコ？」

アコ「ごめんなさい…海さんこそなんでここにいるの？」

海「別に！ただブラブラしていただけさ…」

そこに昨日のおばちゃんを通りかかり声かける

おばちゃん「あら！かわいいお姫様にかっこいいお兄さんね〜お一つどうぞ？」

キャンディを2人に差し出す

アコ「あつわたし別に！」

おばちゃん「えんりよしないでおばちゃん特性の笑顔になれるキャンディだよ？」

アコ「笑顔になれるキャンディ？」

おばちゃん「みんな準備してみんなで笑顔の今日のお祭り、だからアコちゃんも笑って…」

そう言ってキャンディを2人に渡して別の場所に向かっていく。

2人はキャンディを食べ海が話す

海「あんまり先の事ばかり考えるなよ？今はこの祭りを楽しんでいけばいい、音符もそのうち集まるさ…」

アコ「うん！そうだね！」

笑うアコ

一方の響たちはこの出来事を建物の影から覗いていた！

響「アコやつと笑ったね」

エレン「ええ」

奏「良かった」

一方の狼達は？

狼「ふう～疲れた～！」

ベンチに腰掛ける2人

甲「お疲れさん！つてまさかこの祭りでお前がヒーロー役だったなんてびつくりしたよ！」

狼「まあな？さて飯でも食う…？なんだあれは」！

突然ファルセットが率いるトリオザマイナーが闇から町の中央に現れたのだ！

プリキュアメンバーもこの騒動に駆けつける

響「トリオザマイナー！あれ？」

狼「またおまえらか！ファルセット今日こそ…？そいつら誰？」

奏「またあなた達？あれ？」

エレン「あの怪物みたいなの何？」

甲「なんか見たことある気がするな？」

アコ「変な仮装ね？」

バストラ＆バリトン「変な仮装じゃねえ～俺達だ～！」

全員「え～！なにがあっただ～！！！」

ファルセット「俺がこいつらに偉大なるお二人の王から力をプレゼントとして強化してやったのさ！」

自慢げに言うファルセットそして音符を二つ取り出して側に落ちていた刀の玩具とかぼちゃランタンに投げつけて叫ぶ！

ファルセット「いでよ！ネガトーン共々！」

サムライ&カボチャネガトーン「ネガトーン！」

二体のネガトーンが現れ先ほどまで幸せそうな町中の人々が泣き始める！

狼「てめえよくも！」

響たち「みんなの笑顔を奪うなんて！絶対に許さない！」

響たちはキュアモジューレを！狼たちはオートバジンが投げくれたドライバーなどアイテムをキャッチして装着して言う

狼「みんな！いくぜ！」

狼&甲「変身！」

【Statting・by】【Complete】【Awaken ing】

ファイズBFとデルタに変身する！

四人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

四人「届け、4人の組曲！スイートプリキュア！」

ポーズを決める4人！

そしてミューズがいきなり飛び出し攻撃を開始する！

ミューズ「はあ〜！！きゃあ〜！」

当然叩き返される！

三人「ミューズ！」

三人がキャッチしてなんとか地面に着地する

ファイズBF「何やってるんだ！」

コードを入力してファイズブラスターをブラスターモードにし

【Blaster Mode】

さらに5214とコード入れる

【Faiz Blaster Discharge】

フォトンフィールドジェネレーターが展開し両肩に背負う形のブラッディ・キャノンが装着され構えネガトーンに打ちまくる！

ファイズBF「くらえ〜！」

【ビューーン！ビューーン！ビューーン！ズド〜ン！ズド〜ン】

ネガトーン達「！！！！ネガト〜ン！」

ひるむネガトーン達！

ファルセット「邪魔はさせん变身！」

【Statting・by】【Complete】

サイガに変身してフライングアタッカーをファイズ達に向かって放つ！

【ズガガガガガ！】

周りの立て物や屋台に向かって無茶苦茶に打ちまくりファイズBFとプリキュアはかわしファイズが叫ぶ！

ファイズBF「サイガは俺達が引き付ける！皆はネガトーンを！」

プリキュア達はうなずきネガトーンに！ライダー達はサイガに立ち向かう！

するとサイドバッシャーに乗った成二がドライバー装着姿で現れた！

ファイズBF「兄貴！」

成二「援軍に来たぞ！」

素早くカイザフォンにコードを入れ叫ぶ！

成二「この前の仮！きっちり返してもらっぜ！变身！」

【Statting・by】【Complete】

カイザ「行くぞ！」

サイガ「面白い！かかって来いライダー共！」

三人は立ち向かっていく！

プリキュア達もネガトーンに果敢に攻撃を開始し始める！

まずはメロディー

メロディー「はあ〜！」

サムライネガトーンは刀でパンチを受け止めそのまま押し返す！

メロディー「くっ！」

リズム「大丈夫？」

ビート「危ない！ビートバリア！」

バリアを張り皆を守る！

メロディー「ビートありがとう！でもあの刀厄介ね！どうすれば…！」

ミューズ「隙を見せてくれれば！」

その間にもバリアを攻撃する二体！

とその時！

【ズドドン！】

突然銃弾がネガトーン達を襲い跪かせる！

メロディー「えっ？」

リズム「何が？」

ビート「あれは！」

ミューズ「昨日の人たちだわ！」

マーベラス達だった！

マーベラス「ったくせっかくパイ食いに來たのにうるせえ音のせい

でパイが全部台無しじゃね〜か！」

ルカ「それにお祭りまで台無しだったけんだけど！最悪！」

ハカセ「まあまあ！それよりようやく見つかったよ！女の子戦士に

仮面戦士！え〜と！」

ジョー「確かプリキュアと仮面ライダーだったか？」

思いつき間違えられてずっこけるファイズBFとメロディー！

ファイズBF「仮面ライダーだ！」

メロディー「プリキュアよ！」

ジョー「どっちでもいい！似たようなもんだろ？」

ファイズBF&メロディー「全然違う！」

鎧「いやいや！ジョーさん失礼ですよ？ちゃんと覚えましょう！」

アィム「とにかくあの方々たちを助ければいいですね？」

ライダーとプリキュアは？になったあとメロディーが

メロディー「ここは危ないから下がってください！危険ですから！
ってあなた達なんで不幸のメロディ聞いても平気なんですか？」

マーベラス「さあな？しかしお前海賊に指図するのか？言っとくが
俺達は誰の指図も受けないぜ！おまえら行くぞ！」

それぞれのレンジャーキーとモバイレッツとゴークアイスルラーをメ
ンバーが取り出し鎧以外レンジャーキーをキーモードにして叫ぶ

ゴークイメンバー「豪快チェンジ！！」

五人はキーを差し鎧はゴークアイスルラーにキーを入れて前に突き出
す！

【ゴオオオ〜カイジャー！】

全員黒いスーツ姿に変わりその後それぞれのカラーの衣装が施され
て最後にヘルメットを装着する！

レッド「ゴークイレッド！」

ブルー「ゴークイブルー！」

イエロー「ゴークイエロー！」

グリーン「ゴークイグリーン！」

ピンク「ゴークイピンク！」

シルバー「ゴオオ〜カイ！シルバー！」

レッド「海賊戦隊！」

ゴークイメンバー「ゴークイジャー！」

ファイズBF「思いだしたぞ！あいつらは宇宙海賊のゴークイジャ
ーだ！」

メロディー「えっ？最近ザンギャックから人々を守っている噂の海
賊団ってあの人たちが？」

レッド「ちがうな！俺達は宇宙最大のお宝を探している海賊だ！」

ブルー「それと俺達にその不幸のメロディーが効かないのはレンジ
ヤーキーの力のおかげだ！」

シルバー「！みなさん！話は後です！来ますよ！」

サムライネガトーンが襲い掛かってきたのだ！

レッド「ちっ！面倒だが！派手に行くぜ！」

グリーン「このサムライみたいなヤツは僕達に任せて！」

リズム「えっ！でも！」

イエロー「ごちゃごちゃ言わないで！あんた達はあっちのカボチャ
の方をやつて！」

ピンク「よろしくお願いします！」

シルバー「よし！ギンギンにいくぜ！」

五人はゴーカイサーベルとゴーカイガン！シルバーはゴーカイスピ
アを取り出して走り出す！

レッド「ふん！おりやあ！」

ブルー「ハア！」

イエロー「ほっ！はっ！」

グリーン「ソレソレソレ！」

ピンク「ハア！えい！」

シルバー「おりやあ！」

全員の攻撃が見事に決まり怯むネガトーン！

ブルー「アイム！受け取れ！」

アイム「承りました！」

イエロー「ハカセ！」

グリーン「オツケ！ルカ！」

次に互いにゴーカイサーベルとゴーカイガンを交換する！

メロディー「武器を交換？」

リズム「メロディーよそ見しないで！」

パンプキン！ネガトーン！」

種を飛ばして来たので避ける！

まずはピンクとグリーンがゴーカイガンで同時射撃を連射し次にブ

ルーとイエローがゴーカイサーベルで同時に切り裂き！トドメにレッドとシルバーが同時攻撃を決める！

サムライ「ネガトーン！」

だがネガトーンもそう簡単には倒れず耐え切る！

イエロー「しぶといわね〜！こいつ〜！」

シルバー「相手はサムライですからね〜！皆さん！ここはシンケンジャーで行きましょう！」

レッド「よし！弔い合戦だ！」

全員シンケンジャーのキーを取り出し変身する！

ゴーカイメンバー「豪快チェンジ！」

【シイイ〜ンケンジャー〜！】

全員シンケンジャーに変わる！

レッド「侍戦隊！」

ゴーカイメンバー「シンケンジャー！」

ビート「姿が変わった！まるでディケイドみたい！」

メロディー&リズム「凄い…！」

ミユーズ「サムライになっちゃた！」

驚く四人！

レッド「行くぞ！」

五人はシンケンマルをゴールドはサカナマル構え走りシンケン六連斬りを繰り出す！

イエロー、ピンク、ブルー、グリーン、レッドが連続で斬りつけ、最後にゴールドがサカナマル・百枚おろしを決める！

レッド「シンケン六連斬！」

サムライ「ぐおおお！ネガトーン！」

サムライは大ダメージを受け跪きシンケンジャーはゴーカイジャーに戻る！

レッド「トドメだ！」

ゴークカイバツクルからゴークカイガレオンバスターを召還する！

ゴークカイジャー「ゴークカイガレオンバスター！」

メロディー「船？それとも大砲？」

リズム「どっちにも見えるわ！つてよそ見しないで！」

再びカボチャの攻撃をかわす！

シルバー「なら俺も！！」

ゴークカイバツクルから15人の追加戦士のキーの力を一つにしたゴールドアンカーキーが出現した！

シルバー「豪快チェンジ！」

そのままゴークカイセルラーの下に差し込む！

【ゴークカイシルバー！ゴールドモード！】

ゴールドアンカーキーが巨大化してそのまま鎧になりゴークグルが下がってゴールドモードになった！

シルバーG「ゴークカイシルバー！ゴールドモード！」

決めポーズで決めるシルバーG

ミューズ「シルバー？ゴールド？どっちなの？」

シルバーG「どちらもです！みなさん行きましょう！」

レッド「よし！ド派手にいくぜ！」

四人がそれぞれのレンジャーキーをゴークカイガレオンバスター差し最後にレッドが差し込む！5つの専用シリンドーに差し込んだレンジャーキーのエネルギーを【レッドチャージ】の電子音声と共に収束し、ゴークカイガレオン型のエネルギー弾【ライジングストライク】を放つ体制に入る！

レッド「鎧！先にやれ！」

シルバーG「わかりました！マ・ベラスさん！」

シルバーGもアンカーモードのゴークカイスピアにレンジャーキーを差し！

【フアアアアイナルウエエエエイブ！！！！】

シルバーG「ゴークアイ！レジェンドリム！」

アンカーモードのゴークアイスパアから召喚されたエネルギー体と共に連続で敵を攻撃しトドメにシルバーが切り裂く！

サムライ「ぐ！」

レッド「今だ！」

ゴークアイジャー「ゴークアイ！ライジングストライク！」

【ラァアアイジングストライクウウー！！】

凄まじいエネルギー弾が命中してネガトーンは爆発して消滅して浄化された音符が残る！【レンジャーキーには歴代戦士の正義の力が宿っている為その力で音符が浄化されました】

レッド「うん？なんだこれ？」

レッドがそれを拾う

ピンク「かわいい音符ですね？」

ハミィ「それは幸せの音符だにや〜こつちに渡して欲しいにや〜」

ハミィがレッド達に話す

イエロー「猫が喋った〜！」

ブルー「なんだおまえは！」

グリーン「君は一体？」

ハミィ「ハミィって言うニヤ〜！よろしくニヤ〜ゴークアイジャーのみなさんニヤ〜」

シルバー「スゲー！喋る猫か！初めて見ましたよ！」

グリーン「いや〜多分みんな初めてだと思っよう鑑…」

レッドは音符をハミィに放り投げる！

レッド「こんな物興味ない！ほらよ！くれてやる！」

ハミィ「ありがとニヤ〜」

キャッチしてフェアリートーンに入れる。

するとモバイレーツから着メロになる！

レッド「どうした？鳥！」

ナビィ「ザンギヤックが動きだしたよ！急いで戻って〜！」

レッド「わかった！すぐ戻る！お前ら引き上げるぞ！」

ブルー「ああ！」

イエロー「あゝあ！せっかくの休暇だったのに！」

グリーン「仕方ないよルカ！」

ピンク「そうですね……またここに来ましょう」

シルバー「それにザンギアックは放って置けませんからね！」

レッド「おい！猫！プリキュア！悪いが俺達は急用が出来た！だから帰るぜ！じゃあな！」

ゴーカイジャーは引き上げて行った！

メロディ「強い人達だったね」

リズム「うん　って危ない」

鞭攻撃が飛んできたのでかわす！

メロデー「こいつこいつわね〜！」

今度はカボチャは種を連射してきてメロディ達はすぐにかわしたがその種が逃げ遅れた子どもに向かって行く！

リズム「大変！」

「ビート」させない！ビートソニック！」

ビートソニックで複数打ち落としたが残りはまだ向かう！

「ミュージーだめ！間に合わない！」

とその時！丸い青い光の壁が突然現れ子どもを守る！

ミュージー「あれは？」

「まったく…あぶねえだろ！しっかり状況を見て戦え！」

海だつた！

ミュージー「海さん！」

海「下がってろ！俺が戦いつて物を見せてやる！」

メロディー「え？でも海さんベルトが……」

海はドライバーを身に付けていなかった。

海「心配するな！……俺にはコレがある！みてろ！」

海の右腕に付いたアグレイターが回転しブレードが開き叫ぶ！

海「アグルウウ！！！！！！！！！！」

まぶしい青の光と共に等身大の大きさのウルトラマンアゲルに変身

する！

アグル「デュア！」

メロディ「えゝ！なにその姿！」

リズム「さっきの狼くんと同じ仮装？」

アグルが敵の方をみたまま心に話しかける

アグル【仮装じゃない！コレが俺の本当の力！海の力と音楽の力！そして宇宙中の光の力が地球に集まって出来た戦士それが俺！ウルトラマンアグルだ！】

メロディ「えゝ！なんで喋ってないのに！」

リズム「それに本物のウルトラマン？」

ビート「海さんあなた一体……」

呆然となる三人

アグル【俺は喋る事は出来ないが心でなら会話が出来るんだ！それにいったら？俺はウルトラマンだ！】

アグルはまず格闘技で相手を攻撃しさらにスピード感あふれる動きで相手をねじ伏せる！

パンプキン「倒れさらに怒りのボルテージがあがった後起き上がり種で攻撃する！」

パンプキン「ネガトーン！」

ビート「危ない！」

だがアグルは光の剣アグルブレードを出して！

アグル「フオワ！ジュワ！」

アグルはブレードで全ての種をパンプキンに弾き返して攻撃そしてそのまま接近して怯んだパンプキンの手足を切り落とし動きを封じる！

メロディ「凄い！」

リズム「攻撃だけじゃなく町に被害を出さない用に戦っている！」

ビート「かつこいい……！」

アグルはブレードを終い

アグル【ミューズ！俺と必殺技を合わせるぞ！】

ミューズの心に話す！

ミューズ「あつうん！」

まずはミューズがシリーをキュアモジューレに装着する！

ミューズ「シの音符のシャイニングメロディ！」

シリーの力が宿ったモジューレの力で大量の音符を生み出し、それらをぶつけてネガトーンを包み込み！

ミューズ「プリキュア！スパークリングシャワー！」

ネガトーンが空中に浮く！

アグルはブライトスポットの前で腕をXの字に組んでエネルギー集約しそしてブライトスポットから必殺技のフォトンクラッシュシャーを放つ！

アグル「デュアアアア！」

フォトンクラッシュシャーとスパークリングシャワーが合わさりパンプキンを包み

ミューズ「三拍子！ 1・2・3！フィナーレ！」

そしてカボチャランタンとアグルの力のおかげか？浄化された音符に戻る

アグル【終わったな】

そうアグルが言ったとたんライフゲージが赤く点滅し【ピコ・ピコ・ピコ】と鳴り始める！

メロディ「え！もう三分たったの！」

リズム「ううん三分以上戦っていたわ！」

ビート「ウルトラマンって地球では確か三分間しか戦えないハズよね？」

アグル【アグルは地球から誕生したからな！だから制限時間はない…だが必殺技を使うとエネルギーを急激に使ってパワーが減ってしまうのさ】

アグルは海に戻る！

海「後はサイガだな…！【なんだ！この感じ！】」

一方ファイズBFは圧倒的な戦略でサイガを追い詰めていた！
サイガ「く！くそう！」

追い詰められたサイガはステアコントローラーのみを引き抜いて変型させた「トンファージェツモード」を片手で持ちフォンを開いてボタンを押して閉じ走る！

【Exceed Charge】

サイガはサイガスラッシュを発動した！

ファイズBF「兄貴！甲！行くぜ！」

カイザ「オウ！」

デルタ「了解！」

まずはデルタ！

デルタ「チェック！」

【Exceed Charge】

ルシファーズハンマーを放ちサイガを止める！

サイガ「ぐ！」

カイザ「いくぞ！男の熱血捨て身戦法パート2クロススラッシュ！」

【Exceed Charge】

カイザグレイガンでクロススラッシュを繰り出しサイガを切る！

サイガ「がは！」

ファイズBF「トドメだ！喰らえ！プラスタークリムゾンスマッシュ！」

【Exceed Charge】

ファイズBFはプラスタークリムゾンスマッシュを放つ！

全ての攻撃がサイガに襲い掛かるがサイガは何とか耐える！

サイガ「まだまだ！王が蘇るまで俺は！」

とその時！突然オーラが現れライダーの必殺技が全てかき消される！
ファイズBF「うつつわあああ！」

カイザ「がああああ！」

デルタ「なっ！なんだ！」

三人が倒れた時オーラからみた事無い化け物が現れサイガを助け起

す！

？「しっかりしやがれよ！あんな雑魚に負けるな馬鹿！」

？「……殺す！」

プリキュア達も駆けつける！

メロディー「あれは！」

リズム「ファンガイア？」

確かに少し似てはいたがビートが否定する。

ビート「いいえ違う！あれは！」

ミューズ「間違いない！あれは！」

イエティレジェンドルガとグールレジェンドルガだった！

イエティ「さて！あいつら殺すか！なっ相棒？」

片手をグールの肩にのせ言う

グール「…殺す…楽しみだ…！」

果たしてレジェンドルガの目的は！

劇場版に続く！

ノイズ／アークの真実とわくわくハロウィン！アゲルと豪快な海賊参上？【後編】

次回はお待ちかねの劇場版スタートです！これに置きまして555
×スイートプリキュアはとりあえず完結します。

今までありがとうございます！

後嶋先生！オリジナルレジェンドルガありがとうございます！

ゴークイジャーとアゲルは本当は巨大戦にしようと思っていましたが、それだと書くのが凄く大変だったので今回は辞めました！ですがまた機会があれば書いてみようと思います！

では劇場版でお会いしましょう！

NEXT FAIZ

劇場版！仮面ライダーキバ！仮面ライダーファイズ！スイートプリキュア 復活？魔界の王と光輝く願いのメロデー！

登場キャラクター2（前書き）

キャラ設定などです ではどうぞ！

登場キャラクター2

メフィスト

原作同様マイナーランドの王

性格など全てが同じだが唯一オリジナルと違うのはオーガに変身することは古い友人関係である為ある程度友人としての友情を大切にしているもよう。

本作ではキバの世界にいる仮面ライダーアークに洗脳されていたがエクストリームの力とミューズの想いで元に戻った。

トリオザマイナー

原作同様三人組で行動する三人！

何故か初期の頃は仮面ライダーを仮面ライダーとよく間違えていたが今回は何故か正しく言える！

ファルセットノタイガーオルフェノクノ仮面ライダーサイガ

全て原作同様だが今作ではオルフェノクに進化しておりサイガとタイガーに変身する！

仮面ライダーアーク

キバの世界で封印されているレジエンドルガの親玉でありこの物語の黒幕の一人！

封印される前にダブルの世界からガイアメモリT3を盗み出して狼の父親、巧に植え付けて洗脳している。

仮面ライダーダークキバ【初代のキング】

太牙の祖父で音楽を心から愛していた。そのため音吉と協力してノイズとアークを封印し倒し方を伝えた後に太牙の父によって暗殺されてしまう

当時かなり高齢だった為封印が精一杯だったらしい

藤宮海ノウルトラマンアグルノ仮面ライダーディガンマ

年齢16歳

演 水島ヒロ

狼の幼なじみでアグルとディガンマに変身する高校生の少年

クールな性格だが正義感が強く子どもが好き。また幼なじみの狼や死んだ弟の面影があるアコは放って置けない為時々助ける！

右腕にアグレイターを身に着けている。

オルフェノクではないがアグルの力のおかげで変身が可能になっている

特技は水泳

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1734x/>

仮面ライダーファイズ×スイートプリキュア！転校生は仮面ライダー？

2011年11月17日21時10分発行